

ショバ・ラニ・ダシュ [著]

『パーリ語文法——仏典の用例に学ぶ——』

練習問題 解答集

【解答集の利用に関する注意】

- ・ 本解答集に示す解答は、あくまでも独学の補助を目的とするものである。教員のもとで学ぶ場合には、本解答集を参照せず、自ら解答を試みることで語学力の向上につながる。
- ・ 解答は、場合によって複数の形や解釈が可能であるが、ここではそのうちの一例のみを示している。
- ・ できる限りパーリ語の語順および文法事項に基づいて直訳しているため、日本語として不自然に感じられる場合がある。
- ・ 以下の課における一部の練習問題については、学習効果を考慮し、意図的に解答を示していない。これらの問題については、各自で解答を試みることを望ましい。

解答未掲載課：第4-A、7-A、9-A、10-A、16-A、18-A、19-A、22-A、23-A、24の下線部分、25の下線部分、第29課。

- ・ 『改訂パーリ語文法』（2026年4月刊行）において改変した問題には〈改訂版〉を付記した。

(2026. 7. 30)

第1課 p.8

Youtube「法藏館公式チャンネル」動画で公開中。

『パーリ語文法 仏典の用例に学ぶ』発音解説 02：練習問題

https://youtu.be/RmlpY_dLJyU?si=Ij4bYkEB8WoaMs0m



第2課 p.19–20

A) 以下の単語の母音強化の構成を示し (2.3.a 参照)、その意味を書きましょう。

√ji → jayati (勝利する), jaya (勝利) : ji + a > je + a > jay + a = jaya + ti, jaya

√ru → ravati (鳴く), rāva (鳴き声) : ru + a > ro + a > rav/rāv + a = rava + ti, rāva

√chada → chādeti (覆う), chādana (覆い) : chad + e > chād + e = chāde + ti, chāda + na

√si → sayati (寝る), sayana (寝ること、ベッド) : si + a > se + a > say + a = saya + ti, saya + na

√hū → hoti (ある、なる) : hū + a > ho + ti

√vida → vedeti (知る), vedanā (感受作用) : vid + e > ved + e = vede + ti, veda + nā

ā √nī → āneti (持ってくる) : ā-ni + a > a-ne + a = āne + ti

√cu → cavati (死ぬ), cavana (死没) : cu + a > co + a > cav + a = cava + ti, cava + na

√cudā → codeti (叱責する), codanā (叱責) : cud + e > cod + e = code + ti, cud + a > cod + a = coda + na

B) 以下の単語は同化、異化、重複音、メタセシスのいずれになるかを示し、その意味を書きましょう。

Skt.	P.	分類	意味
lupta	lutta	同化	削除された
garhya	gārayha	メタセシス	卑しむべき
nirmala	nimmala	同化	清らか、汚れなき
aṣṭa	aṭṭha	異化	八
pūrvāḥṇa	pubbaṇha	異化	午前
dharma	dhamma	同化	法
kṣatriya	khattiya	同化	クシャトリヤ
raśmi	raṁsi	メタセシス	光線
śramaṇa	samaṇa	異化	沙門
kanyā	kañṇā	異化	少女、娘

C) 以下の単語を sandhi 規則に基づいて結合しましょう。() 内の数字は sandhi 規則番号です。

na + eva (1) : neva	itthī + iti (2) : itthīti
sadhu + iti (5) : sādhūti	so + eva (7) : sveva
ñāṇa + āloka (1) : ñāṇāloka	iti + ādi (8) : iccādi
te + ahaṁ (6) : tyāhaṁ	tena + upasaṅkama (1) : tenupasaṅkama
na + ettha (1) : nettha	so + ahaṁ (7) : svahaṁ
upa + ikkhati (3) : upekkhati	bhikkhuni + ovādo (1) : bhikkhunovādo
ke + assa (6) : kyassa / kyāssa	ajja + uposatha (4) : ajjūposatha
ati + antaṁ (8) : accantaṁ	cakkhu + indriyaṁ (2) : cakkhundriyaṁ
su + āgataṁ (7) : svāgataṁ	yathā + udaya (3) : yathodaya
idha + ayaṁ (9) : idāyaṁ	anu + aḍḍhamāsaṁ (7) : anvaḍḍhamāsaṁ
itthī + indriyaṁ (1) : itthindriyaṁ	pañca + indriyāni (1) : pañcindriyāni

第3課 p.28

A) 以下の単語を sandhi 規則に基づいて結合しましょう。() 内の数字は sandhi 規則番号です。

du + labha (子音 : 4) : dullabha	dhammaṁ + ca (抑制音 : 1) : dhammaṁ ca
taṁ + eva (抑制音 : 2) : taññ eva	yathā dhaññaṁ + iva (抑制音 : 9) : yathā dhaññaṁ va
du + sīla (子音 : 4) : dussīla	seta + chatta (子音 : 4) : setacchatta
dīpaṁ + karo (抑制音 : 1) : dīpaṅkaro	abhi + ācikkhana (雑 : 3) : abbhācikkhana
ni + mala (子音 : 4) : nimmala	sayāṁ + jāta (抑制音 : 1) : sayāṁ jāta
so + muni (子音 : 3) : samuni	anu + gaha (子音 : 4) : anuggaha
jāyati + soko (子音 : 1) : jāyatī soko	kiṁ + etaṁ (抑制音 : 4) : kim etaṁ
khanti + paramaṁ (子音 : 1) : khantī paramaṁ	adhi + upagacchati (雑 : 4) : ajjhupagacchati
eso + pañho (子音 : 3) : esapañho	paṭhama + jhāna (子音 : 4) : paṭhamajjhāna
evaṁ + hi (抑制音 : 2) : evaṁ hi	saṁ + mata (抑制音 : 1) : sammata

B) 以下の文を読み上げ、sandhi の箇所を下線を引きましょう。

atha kho rājā Māgadho Ajātasattu Vedehiputto Vassakāraṁ brāhmaṇaṁ Magadha-mahāmattaṁ āmantesi: “ehi tvam, brāhmaṇa, yena bhagavā ten’ upasaṅkama; upasaṅkamitvā mama vacanena bhagavato pāde sirasā vandāhi, appābādham appātāṅkaṁ lahutthānaṁ balaṁ phāsuvihāraṁ pucchā: ‘rājā, bhante, Māgadho Ajātasattu Vedehiputto bhagavato pāde sirasā vandati, appābādham appātāṅkaṁ lahutthānaṁ balaṁ phāsuvihāraṁ pucchati’ ti. evaṁ ca vadehi: ‘rājā, bhante, Māgadho Ajātasattu Vedehiputto Vajjī abhiyātukāmo. so evam āha: ahaṁ hi ’me Vajjī evaṁ-mahiddhike evaṁ-mahānubhāve uccheccāmi Vajjī, vināsessāmi Vajjī, anayabyasanaṁ āpādessāmi’ ti. yathā te bhagavā byākaroti, taṁ sādhuṅ uggahetvā mamaṁ āroceyyāsi. na hi tathāgatā vitathaṁ bhaṇanti’ ti. (DN.II.72-73)

第4課 p.34-35

B) 日本語に訳しましょう。

narāṇaṃ jalāṃ	人々のために水を
dānāṇaṃ puññaṇa	諸々の布施の功德によって
bhāriyāya mālāya	妻のために諸々の華鬘を
buddhassa dhammena	仏陀の法によって
araññesu migā	諸々の森において鹿たちは
brāhmaṇena dhammasmiṃ	バラモンによる法において
kaññāya rūpaṃ	娘の姿は
dhanehi dānāni	諸々の財産による諸々の布施を
pūjāya pupphāni	供養のために諸々の花を
devānaṃ bhāsāya	神々の言葉によって
samaṇassa upasampadā	沙門の具足会は
saṅghassa sīlena	僧伽の戒によって
paññāya sukhaṃ	智慧によって幸せを
pāpehi dukkhaṃ	諸々の罪によって苦しみを
gāmaṃhi kassake	村において農民たちを
upāsakebhi dānesu	男性在家信者たちによる諸々の布施において
maggesu manussā	諸々の道において人々は
rukkhā rukkhaṃ	木から木へ
rukkhasmiṃ vānarā	木において猿たちは
devānaṃ pādesu	神々の足元において
vihārasmiṃ samaṇāya	精舎において沙門のために
saṅghesu dānānaṃ phalāni	諸々の僧伽において諸々の布施の成果は

C) パーリ語に訳しましょう。

仏陀のために布施を	buddhāya dānaṃ
沙門たちの戒は	samaṇānaṃ sīlaṃ
神々よ！	devā !
僧伽における具足戒は	saṅghe upasampadā
如来の法において	tathāgatassa dhamme
バラモンたちの息子たちによって	brāhmaṇānaṃ puttehi
諸々の村における娘たちのために	gāmesu kaññānaṃ
人々の言語によって	narānaṃ bhāsāya
人々のための食事から	narānaṃ āhārasmā
男性在家信者による諸々の功德の	upāsakena puññānaṃ

妻たちの苦悩を	bhāriyānaṃ dukkhaṃ
僧伽の沙門たちに	saṅghassa samaṇānaṃ
木の上の鳥たちによって	rukkhe sakuṇehi
村における農民たちのために	gāme kassakānaṃ
如来の女性在家信者よ！	tathāgatassa upāsikāyo !
少女たちの手の中の諸々の花は	kaññānaṃ hatthe pupphāni
神々の足において	devānaṃ pādesu
猿たちのための果物を	vānarānaṃ phalaṃ/phalāni
幸せの道において	sukhassa magge
母の目で	ammāya nayanena

第5課 p.45-46

A) 動詞の分類規則に基づき、語根からその語基と3人称・単数・現在形を作成しましょう。語根の補助母音は（ ）で示しました。

第1 類動詞	sup (a) 寝る supati	vand (a) 礼拝する vandati
	vas (a) 住む vasati	car (a) 歩く carati
	khād (a) 食べる khādati	
第2 類動詞	chid (i) 切る chindati	muc (a) 開放する、脱す muñcati
	yuj (a) 結ぶ yujjati	lip (a) 塗る limpati
	sic (a) 注ぐ siñcati	
第3 類動詞	kup (a) 怒る kuppati	nas (a) 死ぬ、亡ぶ nassati
	yudh (a) 戦う yujjhati	vidh (a) 射る、貫く vijjhati
	siv (u) 織る、縫う sibbati	
第4 類動詞	ā √vu 貫通する、突き刺す āvūṇāti	pa √hi 送る pahināti
	abhi √su 聞く abhisuṇoti	sam √vu 抑制する samvuṇāti
第5 類動詞	lu 刈る lunāti	ci 集める cināti
	pu 清める punāti	dhū 振る、捨てる dhunāti
	mi 量る、計る mināti	
第6 類動詞	tan (u) 伸ばす tanoti	kar (a) する karoti
	pa √kar (a) する、行う、作る pakaroti	
第7 類動詞	pūj (a) 祭る pūjeti	gup (a) 守る gopeti
	patth (a) 望む pattheti	dis (a) 教える deseti
	mant (a) 相談する、助言する manteti	

第6課 p.56-58

A) () 内の名詞を適切な格の形に書き換えて空欄を埋め、文章を日本語に訳しましょう。

- maccā vārinā jīvanti. (vāri) 人間たちは水によって生きる。
- bhaginī dadhim bhuñjati. (dadhi) 妹／姉はヨーグルトを食べる。
- manussānaṃ kāye atthi atthi. (atthi) 人々の身体に骨がある。
- manussānaṃ kāye atthi / atthīni santi. (atthi) **〈改訂版〉** 人々の身体に諸々の骨がある。
- saṅghassa sappim detha. (sappi) あなたたちは僧伽に酥油を与える。
- gāvī / gāviyo khīraṃ denti. (gāvī) 諸々の牝牛は乳を与える。
- kaññāyo nadiyā jalena kīlanti. (nadi) 娘たちは川において水で遊ぶ。
- tarunī mañce nisīdati. (taruṇī) 若い女性はベッドの上に座る。
- ajā kadalī / kadaliyo ca phalāni ca khādanti. (kadalī) 山羊たちは諸々のバナナと果物を食べる。
- mahesi, janāni dhammaṃ jānāti. (mahesī) 王妃よ、母は法を知る。
- adhipatimhā asim kiṇāma. (asi) 我々は君主より刀を買う。

B) () 内の語根を動詞の現在形の適切な形に変化させて、文章を日本語に完成させ、訳しましょう。

- rukkhe sakuṇaṃ passāmi. (√disa) 私は木に鳥を見る。
- corā maṇayo corenti. (√cura) 泥棒たちは諸々の宝石を盗む。
- nārī mañce sayati. (√si) 女性はベッドの上に寝る。
- suriyo udadhimhā udeti. (ud √i) 太陽は海から昇る。
- kumāro bhūpati hoti. (√bhū) 少年は王になる。
- rukkhe sakuṇā santi. (√asa) 木に鳥たちがいる。
- gahapatino putto ajaṃ vikkināti. (vi √kī) 家主の息子は山羊を売る。
- tvaṃ gehe dīpaṃ jālesi. (√jala) あなたは家に灯明を点灯する。
- dāraḥ mittena magge gacchati. (√gamu) 少年は友達と道を歩く。
- sissā hatthehi likhanti. (√likha) 弟子たちは手で書く。
- ahaṃ pāsāṇe sīhaṃ avalokemi. (ava √loka) 私は岩でライオンを見る。
- sakuṇā ākāse uddenti. (ud √dī) 鳥たちは空を飛ぶ。

C) 日本語に訳しましょう。

- upāsako tathāgataṃ pūjeti. (DN.II.138) 男性在家信者は如来を供養する。
- vāṇijo gāme asse vikkiṇāti. 商人は村において諸々の馬を売る。
- kassako daṇḍena maggaṃ mināti. 農民は棒で道を測る。
- adhipati dhammena nare pāleti. 君主は法によって人々を守る。
- narā hatthehi maṇayo ocinanti. 人々は手で諸々の宝石を集める。
- kassakā kuse lunanti. (PsmA.I.130) 農民たちは諸々の草を刈る。

- buddhassa ācariyo n' atthi. (VP.I.8) 仏陀には先生がいない。
- vihāre samaṇā ca upāsakā ca santi. 精舎に沙門たちも男性在家信者たちもいる。
- buddho upāsakānaṃ dhammaṃ deseti. 仏陀は男性在家信者たちのために法を説く。
- māṇavassa ratanāni atthi. (J.VI.274) 青年には諸々の宝石がある。
- ācariyassa santike vinayaṃ sikkhāmi. (VPA.V.1116) 私は師のもとで律を学ぶ。
- manussā pucchanti, “passasi, amma?” amma vadati, “na passāmi.” (ThiA.187)
人々は尋ねる「母よ、[王妃を] 見ているのか？」母は答える「いいえ、見てはいない。」

D) パーリ語に訳しましょう。

- 私は農民である。 kassako homi / asmi.
- 詩人たちは手で書く。 kavayo hatthehi likhanti.
- 鳥は地面に立つ。 sakuṇo mahiyaṃ tiṭṭhati.
- 王は象の上に座る。 bhūpati hatthimhi nisīdati.
- 私は家で蛇を見る。 gehe ahiṃ passāmi.
- 月は山から昇る。 sasī girimhā udeti.
- あなたたちは仏陀を礼拝する。 buddhaṃ pūjetha.
- 聖者たちは夜、山の上に行く。 isayo rattiyā giriṃ gacchanti.
- 夫は妻の手に宝石を置く。 pati bhariyāya hatthe maṇiṃ ṭhapeti.
- 私たちは村に住む。 gāme vasāma.
- 幸福な男性は笑う。 sukhī hasati.
- あなたは木の上に鳥を見る。 rukkhe sakuṇaṃ passasi.
- 敵は君主を刀で殺す。 ari asinā adhipatiṃ māreti.
- 海には諸々の宝石がある。 udadhismiṃ maṇayo santi.
- 大臣たちは御者たちに話す。 mantī sārathino vadanti.
- 牛たちは森でバナナを食べる。 gāviyo aṭaviyaṃ kadaliyo bhuñjanti.

第7課 p.67-68

B) () 内の名詞を適切に格変化させ、〈 〉内の語根の未来形を書き、文章を日本語に訳しましょう。

- aham (madhu) 〈√bhuja〉. aham madhuṃ bhuñjissāmi. 私は蜂蜜を食べるであろう。
- vadhū (dāru) 〈ā√hara〉. vadhū dārūni āharissati. 嫁は材木を持ってくるであろう。
- pasu (ucchu) 〈√khāda〉. pasu ucchuṃ khādissati. 動物はサトウキビを食べるであろう。
- sassu (kaṭacchu) (yāgu) 〈√dā〉. sassu kaṭacchunā yāguṃ dadissati. 姑はスプーンでお粥を与えるであろう。
- pabhū (velu) setuṃ 〈√kara〉. pabhū velunā setuṃ karissati. 君主は竹で橋を作るであろう。

C) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- yāguṃ pivissasi? (DhpA.VI.365)
あなたはお粥を飲みますか。
- ettha bhagavā pāṇīyaṃ pivissati. (DN.II.129)
ここで世尊は水を飲むであろう。
- ahaṃ ajja tattha gamissāmi. (DNA.II.366)
私は今日そこに行くであろう。
- sace pana kujjhissāmi, sīlaṃ bhindissāmi. (J.IV.91)
しかし、もし私が怒れば、戒を破るであろう。
- ajja pupphehi garuṃ pūjessāmi. (DhpA.I.208)
今日、私は諸々の花をもって師を礼拝するであろう。
- bhikkhuniyo abhikkhuke āvāse vassaṃ vasissanti ! (VP.IV.313)
比丘尼たちが、比丘のいない住むところで雨安居を過ごすであろう！
- suve samaṇaṃ Gotamaṃ paṇhaṃ pucchissāma. (MN.I.176)
明日、私たちは沙門ゴートマに問いを尋ねるであろう。
- suve Gotamaṃ paṇhaṃ pucchissāma. (MN.I.176) 〈改訂版〉
明日、私たちはゴータマに問いを尋ねるであろう。
- atthi kho brāhmaṇa deva, sīlavanto satimanto. (J.IV.367)
王よ、まさに具戒者（戒律を保つ者）であり、有念者（正念を具えた者）であるバラモンたちがいる。
- ajja rattiṃ bhagavā gāme ’va vasissati. (Pp.239)
今夜、世尊は村にこそ泊るであろう。
- ajja bhagavā gāme ’va vasissati. (Pp.239) 〈改訂版〉
今、世尊は村にこそ泊るであろう。
- tena kho pana samayena bhikkhū dūraṃ gāmaṃ piṇḍāya caranti. (VP.I.117)
その時、比丘たちは、遠方の村へ托鉢に出かけていた。
- evaṃ kho, Mahānāma, ariyasāvako bhojane mattaññu hoti. (MN.I.355)
マハーナーマよ、まさにこのようにして聖なる弟子は、食事において適量を知る者である。
- sace ahaṃ satte māressāmi, nirayaṃ gamissāmi. (DhpA.III.300)
もし私が衆生を殺すならば、地獄に行くであろう。
- brāhmaṇa, sace magge vasissasi, sayaṃ marissasi, sace ajja gharaṃ gamissasi, bhariyā marissati. (J.III.343)
バラモンよ、もしあなたは道に留まるならば、あなた自身が死ぬだろう。もし今日家に行くならば、妻が死ぬだろう。
- bhikkhu dhammaññu ca hoti atthaññu ca, attaññu ca, mattaññu ca, kālaññu ca, parisaññu ca, puggalaññu ca hoti. (DN.III.252)
比丘は、法を知る者であり、[物事の正しい] 意味を知る者であり、自己を知る者であり、

適量を知る者であり、時を知る者であり、[四]集を知る者であり、人を知る者でもある。

第8課 p.76

A) () 内の名詞を適切に格変化させ、〈 〉内の語根をアオリスト形にし、文章を日本語に訳しましょう。

- viññū (sabbaññū) dhammaṃ 〈√ñā〉.
viññū sabbaññūno dhammaṃ jāni. 知者は一切知者の法（教え）を了知した。
- pakkhī (taru) 〈ni √sada〉.
pakkhī tarusmiṃ nisīdi. 鳥は木に座った。
- vidū (yāgu) 〈√bhuja〉.
vidū yāguṃ bhuñjī. 知者はお粥を食べた。
- sattū (dhanu) migaṃ 〈√mara〉.
sattu dhanunā migaṃ māri. 敵は弓で鹿を殺した。
- taruṇī vihāre (dīpa) 〈√jala〉.
taruṇī vihāre dīpaṃ jālesi. 若い女性は精舎で燈明を点火した。
- upāsikā vihāre (dīpa) 〈√jala〉. **〈改訂版〉**
upāsikā vihāre dīpaṃ jālesi. 女性在家信者は精舎で燈明を点火した。

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- hiyyo Gotamaṃ avocumha. (VP.II.128)
昨日、私たちはゴータマに言った。
- Dhaniyo tiṇa-kuṭṭikaṃ akāsi. (VP.III.41)
ダニヤは草の小屋を造った。
- ahaṃ pañhaṃ kathesiṃ. (J.I.165)
私は[あなたたちの]問いに答えた。
- paribbājakaṃ tuṇhī ahesuṃ. (DN.I.179)
遍歴行者たちは沈黙した。
- Upanando aññatarāṃ āvāsaṃ agamāsi. (VP.I.300)
ウパナンダはある家へ行った。
- nāhaṃ paccekabuddhaṃ māresiṃ. (J.III.441)
私が独覚を殺したのではない。
- ahaṃ tena samayena rājā Mahāsudassano ahoṣiṃ. (DN.II.196)
私はその時、マハースダッサナ王であった。
- ahaṃ tena samayena Mahāsudassano ahoṣiṃ. (DN.II.196) **〈改訂版〉**
私はその時、マハースダッサナ[王]であった。

- Vassakāro brāhmaṇo Upanandarī senāpatirī āmantesi. (MN.III.13)
ヴァッサカーラというバラモンは、將軍ウパナンダに語りかけた。
- atha kho bhagavā Nandakam āmantesi. (MN.III.276) **〈改訂版〉**
そして、世尊はナンダカ [尊者] を呼びかけた。
- saccam, bhikkhave, Moggallāno āha. (VP.III.105)
比丘たちよ、モッガッラーナは真実を語った。
- atha kho bhagavā āha: “aññāsi vata, bho, Koṇḍañño, aññāsi vata, bho, Koṇḍañño”. (SN.V.424)
その時、世尊は [次のように] 言った。「ああ、実にコーンダンニャは理解したのだ。ああ、実にコーンダンニャは理解したのだ。」

第9課 p.88-89

B) () 内の単語を適切に格変化させ、文章を日本語に訳しましょう。

- rājā Pasenadi Kosalo (buddha→**buddham**) abhivādessati.
コーサラ国のパセーナディ王は仏陀に礼拝するであろう。
- bālānarī saṃsāro (dīgha→**dīgho**) hoti. (Dhp.17. verse 60)
愚かな者たちの輪廻は長いものである。
- samaṇarī (Gotama→**Gotamarī**) paṇharī pucchissāma. (MN.I.176)
私たちは沙門ゴートマに問いを尋ねるであろう。
- aññatitthiyā paribbājakā (Sundarī→**Sundarī**) paribbājikam etad avocum. (Ud.43)
外道の遍歴行者たちはスンドリーという女性遍歴行者に次のように言った。
- mātugāmo (dakkha→**dakkho**) analaso ca hoti. (SN.IV.238)
女性が有能であり、かつ怠けることがない (勤勉である)。
- taruṇī ca piyā (kaññā→**kaññā**) mahesī bhavissati. (Ap.I.94.verse 16)
若くて可愛い娘が王妃になるであろう。
- mahāpurisassa aṅguliyo na (dīgha→**dīghā**) honti na (rassa→**rassā**) . (DNA.II.446)
偉人の諸々の指は長くも短くもない。
- tena kho pana samayena bhikkhū (dūra→**dūram**) gāmarī piṇḍāya caranti. (VP.I.117)
その当時、比丘たちは遠くの村へ托鉢に出かけていた。
- Vassakāro (brāhmaṇa→**brāhmaṇo**) Magadha-mahāmatto samaṇarī Gotamarī etad avoca.
(DN.II.73)
マガダ国の大臣であるヴァッサカーラバラモンが沙門ゴータマに次のように言った。

C) 日本語に訳しましょう。

- ko saccam āha ko musā. (AN.IV.429)
誰が真実を語り、誰が偽りを語ったのか。

- atha kho bhagavā yena maṇḍala-mālo ten’ upasaṅkami, tattha paññatte āsane nisīdi. (DN.I.2)
そして、世尊は、周円堂（円形の集会堂）があったところに近づいて、そこに用意されていた座に座った。
- ayaṃ, deva, bhagavā araham sammā-sambuddho amhākaṃ amba-vane bhikkhu-saṅghena saddhim viharati. (DN.I.49)
王よ、こちらの阿羅漢であり、正等覚者である世尊は、我々のマンガー園にて比丘僧伽とともに滞在している。
- tena kho pana samayena rājā Māgadho Ajātasattu Vedehi-putto puṇṇamāya rattiyā rājāmaccehi saddhim upari-pāsāde nisīdati. (DN.I.47)
その時、ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、満月の夜に、王の諸々の大臣たちとともに宮殿の最上階に座っていた。
- atha kho so Sakko devānam indo āyasmantaṃ Assaguttaṃ etad avoca: “mahā kho bhante, bhikkhūnaṃ saṅgho hoti, ahaṃ saṅghassa ārāmiko. ken’ attho? kiṃ ahaṃ karissāmi”? (Mp.6)
その時、神々の王であるその帝釈天は、尊者アッサグッタに次のように言った。「尊者よ、比丘たちの僧伽はまことに大きい。私は僧伽の園の世話人である。何のご用であろうか？私は何をしたらよいであろうか。」
- ekacce samaṇā ca brāhmaṇā ca bhojanāni bhuñjanti. te evarūpaṃ kathaṃ kathenti. seyyathidaṃ—na tvaṃ imaṃ dhammaṃ vinayaṃ ca ājānāsi, ahaṃ eva imaṃ dhammaṃ ca vinayaṃ ca ājānāmi. (DN.I.8)
ある沙門たちや婆羅門たちは食事をする。[その時に] 彼らはこのような話をする。すなわち「あなたはこの法と律を理解していない。私こそがこの法と律を理解しているのだ。」
- tena kho pana samayena sambahulānaṃ bhikkhūnaṃ maṇḍala-māle ayam antarākathā udapādi: “ko nu kho, āvuso, sippaṃ jānāti? ko kiṃ sippaṃ sikkhī? kataraṃ sippaṃ sippānaṃ aggaṃ” ti? (Ud.31)
その時、多くの比丘たちの間で、周円堂（円形堂）にて次のような雑談が起こった。「友よ、いったい誰が技能を知っているのか。誰がどの技芸を学んだのか。諸々の技能の中で、どの技芸が最上なのか。」と。

第10課 p.99–100

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- devā paṭhamāṃ paṭiggaṇhanti, pacchā manussā. (DN.II.14)
神々がまず受け取り、その後人々が受け取る。
- devā paṭhamāṃ paṭiggaṇhanti, manussā dutiyāṃ. 〈改訂版〉
まずは神々が受け取り、人々が次に受け取る。
- atha kho Raṭṭhapālo kulaputto ekam pi bhattaṃ na bhuñji. (MN.II.57. 注7)
その時、良家の息子であるラッタパーラは、一粒のご飯も口にできなかった。

- yadā bodhisatto mātukucchismā nikkhamati, dve udakassa dhārā antalikkhā pātubhavanti—ekā sītassa ekā uṇhassa. (DN.II.15)
菩薩が母胎から生まれ出るとき、空中から二つの水流が現れる。一つは冷水の、一つは温水の [水流である]。
- tato Sakyā aḍḍhateyyasate kumāre, Koḷiyā aḍḍhateyyasate ti pañca kumārasatāni bhagavato adarṇsu. (SnA.I.358)
その後、釈迦族が250人の王子たち、コーリヤ族が250人の王子たち、合わせて500人の王子たちを世尊に差し上げた。
- āyasmā Nandako Sāvattthiyaṃ piṇḍāya acari, tato attadutiyo yena Rājakārāmo ten' upasaṅkami. (MN.III.271)
尊者ナンダカはサーヴァッティーで托鉢を行った。その後、もう一人を伴ってラージャカーラマ [という僧園] へ赴いた。
- ekaṃ samayaṃ bhagavā Sāvattthiyaṃ viharati Jetavane Anāthapiṇḍikassa ārāme bhikkhusaṅghena saddhiṃ aḍḍhatejasehi bhikkhusatehi. (SN.I.192)
ある時、世尊は、サーヴァッティー（舎衛城）の祇園精舎にあるアナータピンディカ（給孤独）の園に、1250人の比丘僧伽と共に滞在しておられた。
- so dārako araṇisahitaṃ dvidhā phālesi, tidhā phālesi, catudhā phālesi, pañcadhā phālesi, dasadhā phālesi, satadhā phālesi, sakalikaṃ sakalikaṃ akāsi. (DN.II.341)
その少年は、鑽木（火起こし木）を二つに割って、三つに割って、四つに割って、五つに割って、十に割って、百に割って、細かく碎いてしまった。
- tāsu kho pan' Ānanda, pokkharāṇīsu cattāri cattāri sopānāni ahesuṃ catunnaṃ vaṇṇānaṃ, ekaṃ sopānaṃ sovaṇṇamayaṃ, ekaṃ rūpiyamayaṃ, ekaṃ veḷuriyamayaṃ, ekaṃ phalikamayaṃ. (DN.II.178)
アーナンダよ、それらの池には、四種類のそれぞれ四つの階段があった。一つの階段は黄金製、一つは銀製、一つは琉璃製、一つは水晶製のものであった。
- yo ca buddhaṃ ca dhammaṃ ca
saṅghaṃ ca saraṇaṃ gacchati;
so cattāri ariyasaccāni,
sammappaññāya passati. (Dhp.54.verse 190)
仏と法と僧に帰依する者は、四つの聖なる真理（四諦）を正しい智慧をもって見る。
- catuddasesu kappesu devaloke ramim ahaṃ,
catusattatikkhattuṃ ca devarajjam akārayim.
sattasattatikkhattuṃ ca cakkavattī ahoṃ' ahaṃ. (Ap.I.278-279.verse 342.3-4)
私は14劫の間、天界で楽しんだ。また、74回にわたって神々を統治した。さらに、77回にわたって私は転輪聖王であった。

第 11 課 p.114

以下の文章を日本語に訳しましょう。

- āhāraṃ vinā manussā na jīvanti.
人間たちは食べ物なしでは生きていかない。
- ahaṃ phalaṃ ca pupphaṃ ca kiṇāmi.
私は果物と花を買う。
- yathā so paṭhāti tathā ahaṃ paṭhāmi.
彼は読むように私も読む。
- sukhaṃ supati, sukhaṃ paṭibujjhati. (AN.III.251)
彼は安らかに眠り、安らかに目覚める。
- aho! imasmiṃ loke ayuttaṃ vattati. (J.I.177)
ああ、この世においては、ふさわしくないことが存在する。
- sā devatā bhagavato santike imaṃ gāthaṃ abhāsi. (SN.I.2)
その女神は世尊の御前でこの偈を唱えた。
- samaṇo pana Gotamo Jambudīpe cando viya suriyo viya ca pākaṭo hoti. (DNA.III.907)
しかし、沙門ゴータマはジャンプディーパにおいて月のごとく、太陽のごとく顕著である。
- tena h' āvuso, suṇātha sādhuṃ manasikarotha bhāsisāmi. (DN.I.157)
それゆえ、尊者たちよ、よく聞きなさい。しっかり心に留めなさい。私は説くであろう。
- bhagavā anupubbena Jetavanaṃ agamāsi. (DhpA.I.63)
世尊は次第にジェータヴァナ（祇園精舎）へ行った。
- yo buddhaṃ paribhāsati atha vā tassa sāvaṃ, so vasalo hoti. (Sn.23.verse 134)
仏陀、あるいはその弟子を誹謗する者、そのような者は賤しい者である。
- sabbe manussā ca devā ca manussaloke vā devaloke vā yathākammaṃ uppajjanti.
すべての人間たちと神々は、人間界において、もしくは天界において、[それぞれの] 業に応じて転生する。
- atha kho āyasmā Anuruddho bhikkhū āmantesi: “alaṃ, āvuso, mā socittha, mā paridevitta”.
(DN.II.158)
その時、尊者アヌルッダは比丘たちに [次のように] 呼びかけた。「尊者たちよ、もう十分だ。悲しむな。嘆くな。」
- bhagavā māraṃ etad avoca: “na ciraṃ tathāgatassa parinibbānaṃ bhavissati”. (SN.V.262)
世尊はマラーに次のように言った。「まもなく如来の般涅槃が訪れるであろう。」
- “kīvaciraṃ pabbajito ’si, āvuso Samiddhi” ti? “na ciraṃ, āvuso; tīṇi vassāni” ti. (MN.III.207)
「友サミッディよ、出家してどれくらいになるのか。」と。「長くはない、友よ。三年 [だけ] だ。」と。
- idha, bhikkhave, mātugāmo daharo va samāno patikulaṃ gacchati, nātakehi vinā hoti. (SN.IV.239)
ここにおいて、比丘たちよ、女性はまだ若いうちに夫の家へ行き（嫁ぎ）、親族無き者にな

る（親族のもとを離れる）。

第12課 p.121–122

A) () 内の名詞を適切に格変化させ、文章を日本語に訳しましょう。

- atha kho rājā Māgadho Ajātasattu Vedehi-putto (bhagavantu→**bhagavantam**) etad avoca. (DN.I.51)
その時、ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、世尊に次のように言った。
- etth' eva 'ssa sattadhā (muddha→**muddhā**) phalissati. (DN.I.95)
まさにここで、彼の頭は七つに破れるであろう。
- Upatisso ti kho me, āvuso, (nāma→**nāman**) . (MN.I.150)
友よ、私の名はウパティッサという。
- Bandhumassa (rāja→**rañño**) Bandhumatī nāma nagaram rājadhānī ahosi. (DN.II.7)
バンドウマ王には、バンドウマティーという名の都が王都としてあった。
- pāpā pāpehi (kamma→**kammehi**) nirayam te upapajjare. (Dhp.86.verse 307)
それらの悪人たちは、悪い行いによって、地獄に生まれる。
- ahañ hi imissā devatāya (yakana→**yakanam**) dadāmi. (ANA.I.371)
確かに私はこの女神に [あなたの] 肝臓を与える。
- tena kho pana samayena Campāyam Soṇo nāma Koḷiviso setṭhiputto sukhumālo hoti, tassa pādātalesu (loma→**lomāni**) honti. (VP.I.179)
その時、チャンパーに、コーリヤ族のソーナという名の長者の息子は繊細な者であり、彼の足の裏には諸々の毛が生えていた。

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- khādatu mañ yakkho. (Mp.275)
夜叉は私を食べるがよい。
- gaccha, mā idha tiṭṭha. (VPA.IV.774)
行きなさい、ここに留まるな！
- kiñ karomi? idāni kuhiñ gamissāmi? (DhA.I.235)
私は何をすればよいのか。今、私はどこへ行けばよいのだろうか。
- atthi imasmim kāye... vakkam, hadayam, yakanam, kilomakam. (DN.II.293)
この身体には.....腎臓、心臓、肝臓、胸膜がある。
- āyasmā Ānando imāya bāhitikāya attano ticīvaram karissati. (MN.II.117)
尊者アーナンダは、この外套を用いて、自分の三衣を作るであろう。
- karotu Suppavāsā satta bhattāni, pacchā tvañ karissasi. (Ud.17)
スッパヴァーサーに七日間の食事の供養をさせよ。その後に、あなたが [食事の供養を] 行

うであろう。

- gaccha tvaṃ, Ānanda, Kusinārāyaṃ pavisa, Kosinārakānaṃ Mallānaṃ etam ārocehi. (DN.II.147)
アーナンダよ、あなたは行きなさい。クシナーラーに入りなさい。[そして] クシナーラーのマッラ族の人々にこのことを告げなさい。
- Brahmaḍatto pana māṇavo attano thāmena ratanattayassa vaṇṇaṃ abhāsi. (DNA.I.38)
しかしブラフマダッタという青年は、自らの力によって三宝の徳を説いた。
- samaṇo khalu, bho, Gotamo daharo ahosi yuvā, agārasmā anagāriyaṃ pabbaji. (DN.I.115)
さて、友よ、沙門ゴータマは若くして、青年の身で、家（在家の生活）から家なき状態へと出家した。
- ucchu veḷu naḷo yāni vā pan' aññāni pi atthi pabbe jāyanti pabbe sañjāyanti, etaṃ phaḷubhijaṃ nāma. (VP.IV.35)
サトウキビ、竹、葦、またはその他にも節から生じ、節から発芽するものがあるが、これを「節の種」という。
- Mahāpajāpati Gotamī bhagavantaṃ etad avoca: “ovadatu, bhante, bhagavā bhikkhuniyo; anusāsatu, bhante, bhagavā bhikkhuniyo; karotu, bhante, bhagavā bhikkhunīnaṃ dhammikathan” ti. (MN.III.270)
マハーパジャパティー・ゴータミーは世尊に次のように言った。「尊者よ、世尊は比丘尼たちを教誡してください。尊者よ、世尊は比丘尼たちを訓戒してください。尊者よ、世尊は比丘尼たちのために法にかなった説法をなさってください。」と。
- punappunaṃ c' eva vapanti bijaṃ, punappunaṃ vassati devarāja; punappunaṃ khettaṃ kasanti kassakā, punappunaṃ dhaññaṃ upeti ratthaṃ. (Tha.56. vese 531)
人々は繰り返しまた種を蒔き、繰り返し天の王は雨を降らす。繰り返し、農夫たちは田畑を耕し、繰り返し穀物は国にもたらされる。

第13課 p.128–129

A) () 内の名詞を適切に格変化させ、文章を日本語に訳しましょう。

- atha kho āyasmā Raṭṭhapālo (pitara <改訂版> pitu → pitaraṃ) etad avoca: “bhojanaṃ me dethā” ti. (MN.II.64)
そこで尊者ラッタパーラは父に次のように言った。「私に食事をください。」と。
- “Mallikā, deva, devī (dhītu → dhītaraṃ) vijāyī” ti. (SN.I.194)
「王よ、マッリカー王妃は娘を生んだ。」と。
- tena kho pana samayena āyasmā Upanando Sakyaputto (bhātu → bhātaraṃ) saddhivihārikaṃ bhikkhuṃ etad avoca. (VP.III.254)
その時、釈迦族の子である尊者ウパナンダは、兄弟である共住者の比丘に次のように言った。

- atha kho āyasmato Raṭṭhapālassa ñātidāsī yen' āyasmato Raṭṭhapālassa mātā ten' upasaṅkami; tattha āyasmato Raṭṭhapālassa (mātu → [mātaraṃ](#)) etad avoca. (MN.II.62)
そして、尊者ラッタパーラの親族の女性使用人は、尊者ラッタパーラの母のところへ行っ
た。そこで尊者ラッタパーラの母に次のように言った。
- B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。
- yāvajīvaṃ macchaṃ maṃsaṃ ca na khādeyyuṃ. (VP.III.171)
[\[比丘たちは\]](#) 生きている限り、魚と肉を食べるべきではない。
- tato seṭṭhi cintesi: “sace me bhariyā dhītaraṃ vijāyissati, imam eva puttaṃ karissāmi. sace puttaṃ vijāyissati, ghāteṣṣāmi” ti. (ANA.I.422)
そこで長者は考えた。「もし私の妻が娘を産むなら、この [\[子\]](#) を息子にしよう。もし息子を産むなら、殺してしまおう。」と。
- sace hi ime sattā dhammaṃ na suṇeyyūṃ, uḷūkamattaṃ yāgum pi kaṭacchumattaṃ pi bhattaṃ na dadeyyuṃ. (DhpA.IV.75)
もしこれらの衆生が法を聞かなければ、ひしゃく一杯ほどの粥さえも、さじ一杯ほどの飯さえも与えないであろう。
- mama ca, bhante, vacanena bhagavato pāde vandeyyāsi, “Uttarā nāma, bhante, upāsikā bhagavato pāde vandatī” ti. (VvA.71)
また、尊者よ、私の [\[次の\]](#) 言葉で世尊の御足に礼拝してください。「尊者よ、ウッタラーという名の優婆夷が世尊の御足に礼拝している。」と。
- yan nūna mayam pi yena bhagavā ten' upasaṅkameyyāma; bhagavato santike paccekaṃ gāthaṃ bhāseyyāma. (DN.II.253)
[私たち](#)もまた、世尊のもとへ行ってはどうか。 [\[そして\]](#) 世尊の御前で、それぞれ偈を唱えてはどうか。
- atha kho bhagavā Suppavāsaṃ Koliyadhītaraṃ etad avoca: “iccheyyāsi tvaṃ, Suppavāse, aññaṃ pi evarūpaṃ puttaṃ” ti? “iccheyyāmaṃ ahaṃ, bhagavā, aññāni pi evarūpāni satta puttāni” ti. (Ud.17)
その時、世尊はコーリヤ族の娘スッパヴァーサーに次のように言った。「スッパヴァーサーよ、あなたは他にもまたこのような息子を望むであろうか。」と。「世尊よ、私は他にもまたこのような息子を七人望むであろうか。」と。
- mamaṃ vā, bhikkhave, pare avaṇṇaṃ bhāseyyuṃ, dhammassa vā avaṇṇaṃ bhāseyyuṃ, saṅghassa vā avaṇṇaṃ bhāseyyuṃ, tatra tumhe na assatha kupitā. (DN.I.3)
[比丘たち](#)よ、他の人たちが私を誹謗しようとも、あるいは法を誹謗しようとも、あるいは僧伽を誹謗しようとも、その時あなたたちは怒るべきではない。
- dve sakuṇā ākāseṇa gaccheyyuṃ, tesu eko ucce rukkhe nisīdeyya, eko nīce rukkhe nisīdeyya. katamassa chāyā paṭhamataraṃ pathaviyaṃ patiṭṭhaheyya, katamassa chāyā cirena pathaviyaṃ patiṭṭhaheyya? (Mp.83)
[二羽](#)の鳥が空を飛んでいたとしよう。そのうちの一羽は高い木に止まり、もう一羽は低い木

に止まったとしよう。どちらの影が先に地面に届くだろうか。どちらの影が遅れて地面に届くだろうか。

- yadi, mahārāja, dve sammāsambuddhā ekasmiṃ khaṇe uppajjeyyurū, tesaṃ parisāya vivādo uppajjeyya.
(DNA.III.902)

大王よ、もし二人の正等覚者が同時に生じるならば、彼らの〔四〕衆において争いが生じるであろう。

- musā na bhāse na ca majjapo siyā
abrahmacariyā virameyya methunā
rattim na bhuñjeyya vikālabhojanam. (AN.I.214-215)

虚偽を語ってはならない。また酒を飲む者であってはならない。

不浄な行いを離れ、淫行をやめるべきである。

夜に非時食を食べてはならない。

第14課 p.138–139

A) 以下の文章を、必要に応じて文章構成法に基づいて書き直し、日本語に訳しましょう。

- ca sūpāni sā paci ca byañjanāni anekāni. (J.VI.366)
sā anekāni sūpāni ca byañjanāni ca paci.
彼女は多くの種類のスープとカレーを調理した。
- bhikkhū paṭipucchiṃsu satthāraṃ evaṃ. (DhpA.I.225)
bhikkhū satthāraṃ evaṃ paṭipucchiṃsu.
比丘たちは師（仏陀）に次のように質問した。
- gacchissāmi aham pi yena gacchissasi tena tvaṃ. (Mp.57)
yena tvaṃ gacchissasi, aham pi tena gacchissāmi.
あなたが行くところへ、私もそこへ行くであろう。
- anagāriyaṃ pabbajimsu Khaṇḍo ca rāja-putto agāasmā Tisso ca purohita-putto. (DN.II.42)
Khaṇḍo ca rāja-putto Tisso ca purohita-putto agāasmā anagāriyaṃ pabbajimsu.
王子カンダと祭司の息子ティッサは、家（在家の生活）から家なき状態へと出家した。
- Gijjhakūṭe samayaṃ bhagavā Rājagahe ekaṃ viharati pabbate. (DN.II.72)
ekaṃ samayaṃ bhagavā Rājagahe viharati Gijjhakūṭe pabbate.
ある時、世尊は王舎城の霊鷲山に滞在しておられた。
- Vedehiputto samayena kho pana Māgadho Ajātasattu Vajjīnaṃ desaṃ tena rājā gacchi. (DN.II.72)
tena kho pana samayena rājā Māgadho Ajātasattu Vedehiputto Vajjīnaṃ desaṃ gacchi.
その時、ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、ヴァッジ族の国へ行った。
- rājā bhante Māgadho pāde Vedehiputto bhagavato vandati Ajātasattu. (DN.II.72)

rājā, bhante, Māgadho Ajātasattu Vedehiputto bhagavato pāde vandati.

尊者よ、ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、世尊の御足に礼拝する。

- āmantesi kho Ānandaṃ bhagavā Bhaṇḍagāme atha āyasmantaṃ. (DN.II.123)
atha kho bhagavā Bhaṇḍagāme āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi.
そして、世尊はバンダガーマにおいて尊者アーナンダに呼びかけた。
- bhikkhu-saṅghena atha bhagavā saddhiṃ yena kho tad avasari Bhoganagaraṃ. (DN.II.123)
atha kho bhagavā bhikkhu-saṅghena saddhiṃ yena Bhoganagaraṃ tad avasari.
そして、世尊は比丘僧伽とともにボーガナガラへ到着した。
- ten' upasaṅkami atha Visākho yena Dhammadinnā bhikkhunī kho upāsako. (MN.I.299)
atha kho Visākho upāsako yena Dhammadinnā bhikkhunī ten' upasaṅkami.
さて、優婆塞ヴィサーカは、ダンマディンナー比丘尼のところへ近づいた。
- akkharāni vā paṇṇe lekhaṃ chindaṭi ti potthake vā likhati. (VPA.II.452)
lekhaṃ chindaṭi ti paṇṇe vā potthake vā akkharāni likhati.
「文字を刻む」とは、葉や書物の上に文字を書くことである。
- Ajātasattu rājā Māgadho ahosi Vedehi-putto tuṇhī. (DN.I.47)
rājā Māgadho Ajātasattu Vedehi-putto tuṇhī ahosi.
ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは沈黙した。
- nikkhamatha karoṭha samaṇadhammaṃ sīghaṃ. (DhpA.III.143)
sīghaṃ nikkhamatha, samaṇadhammaṃ karoṭha.
速やかに出て行って、沙門の修行を行いなさい。
- mahaddhano rājā bhūtapubbaṃ nāma aḍḍho ahosi Mahāvijito mahābhogo. (DN.I.134)
bhūtapubbaṃ rājā Mahāvijito nāma ahosi aḍḍho mahaddhano mahābhogo.
昔、マハーヴィジタという名の王がいて、彼は裕福な者であり、大富豪であり、大富を有していた。
- Bārāṇasi-rājā rajjaṃ Bārāṇasiyaṃ kāresi atīte. (SNA.II.241)
atīte Bārāṇasiyaṃ Bārāṇasi-rājā rajjaṃ kāresi.
昔、バーラーナシーにおいて、バーラーナシー王が国を治めていた。
- janā nagare bahū imasmiṃ anubhavanti sampattiṃ. (DhpA.II.129)
imasmiṃ nagare bahū janā sampattiṃ anubhavanti.
この町では、多くの人々が富を享受している。
- evam eva kho mañjussaro ca ahosi Vipassī kumāro vaggussaro ca madhurassaro ca bhikkhave pemaṇiyassaro ca. (DN.II.20)
evam eva kho, bhikkhave, Vipassī kumāro mañjussaro ca ahosi vaggussaro ca madhurassaro ca pemaṇiyassaro ca.
まさにこのように、比丘たちよ、ヴィパッシー王子は美しい声を持つ者であり、快い声を持つ者であり、甘美な声を持つ者であり、愛情深い声を持つ者であった。

第 15 課 p.140–142

伝統的なパーリ語唱文

1

namo tassa bhagavato arahato sammā-sambuddhassa. 〈仏礼拝文〉

かの世尊・阿羅漢・正等覺者に礼拝する。

2

buddhaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

saṅghaṃ saraṇaṃ gacchāmi.

私は仏に帰依する。

私は法に帰依する。

私は僧に帰依する。

dutiyam pi buddhaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

dutiyam pi dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

dutiyam pi saṅghaṃ saraṇaṃ gacchāmi.

再びもまた、私は仏に帰依する。

再びもまた、私は法に帰依する。

再びもまた、私は僧に帰依する。

tatiyam pi buddhaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

tatiyam pi dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi,

tatiyam pi saṅghaṃ saraṇaṃ gacchāmi. 〈三帰依文 saraṇattaya〉 (Khp.1)

三度もまた、私は仏に帰依する。

三度もまた、私は法に帰依する。

三度もまた、私は僧に帰依する。

3

iti pi so bhagavā araham sammā-sambuddho vijjā-carana-sampanno sugato loka-vidū anuttaro purisa-damma-sārathi satthā deva-manussānaṃ buddho bhagavā ti. 〈仏陀の称号〉 (DN.I.49)

「このようにかの世尊は、阿羅漢であり、正等覺者であり、明と行を具足した者であり（明行足）、善逝であり、世間を知る智者であり（世間解）、人々の調御者として無上の者であり（調御丈夫）、神々と人々の師であり（天人師）、仏であり、世尊である。」と。

4

1. pāṇātipātā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
2. adinnādānā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
3. abrahmacariyā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
4. musāvādā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
5. surā-meraya-majja-pamādaṭṭhānā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
6. vikālabhojanā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
7. nacca-gīta-vāḍita-visūka-dassanā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
8. mālā-gandha-vilepana-dhāraṇa-maṇḍana-vibhūsanatṭhānā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
9. uccāsayaṇa-mahāsayaṇā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.
10. jātarūpa-rajata-paṭiggahaṇā veramaṇī-sikkhāpadaṃ samādiyāmi.

〈沙弥十戒文 dasasikkhāpadaṃ〉 (Khp.1-2)

1. 私は、生きものを殺すことから離れるという学処（学習規則）を受持する。（不殺生）
2. 私は、与えられていないものを取ることを離れるという学処を受持する。（不偷盗）
3. 私は、非梵行（不適切な性行為）から離れるという学処を受持する。（不邪淫）
4. 私は、妄語から離れるという学処を受持する。（不妄語）
5. 私は、放逸の原因となる穀酒、果実酒などの酒〔の飲酒〕から離れるという学処を受持する。
(不飲酒)
6. 私は、非時食（午後の不適切な時に食べることを）から離れるという学処を受持する。（非時食）
7. 私は、舞踊・歌・音楽・見世物を見ることから離れるという学処を受持する。
8. 私は、花輪・香料・塗香などの装飾、荘厳、美容を施すことから離れるという学処を受持する。
9. 私は、高く豪華な寝台〔の使用〕を離れるという学処を受持する。
10. 私は、金銀を受け取ることを離れるという学処を受持する。

5

ye ca buddhā atītā ca ye ca buddhā anāgatā

paccuppannā ca ye buddhā ahaṃ vandāmi sabbadā.

natthi me saraṇaṃ aññaṃ buddho me saraṇaṃ varaṃ

etena sacca-vajjena hotu me jaya-maṅgalaṃ.

buddhaṃ jīvita-pariyantaṃ saraṇaṃ gacchāmi. 〈仏への礼拝文 buddha-vandanā〉

過去の諸仏、未来の諸仏、そして現在の諸仏、〔そのすべての仏たちに〕私は常に礼拝する。

私には他の拠り所はなく、仏陀〔こそ〕が私にとって最も優れた帰依所である。

この真実の言葉によって、私に勝利の祝福がありますように。

私は命ある限り、仏陀に帰依する。

ye ca dhammā atītā ca ye ca dhammā anāgatā

paccuppannā ca ye dhammā ahaṃ vandāmi sabbadā.

natthi me saraṇaṃ aññaṃ dhammo me saraṇaṃ varaṃ
etena sacca-vajjena hotu me jaya-maṅgalaṃ.

dhammaṃ jīvita-pariyantaṃ saraṇaṃ gacchāmi. 〈法への礼拝文 dhamma-vandanā〉

過去の諸法、未来の諸法、そして現在の諸法、[そのすべての法に] 私は常に礼拝する。

私には他の拠り所はなく、法[こそ]が私にとって最も優れた帰依所である。

この真実の言葉によって、私に勝利の祝福がありますように。

私は命ある限り、法に帰依する。

ye ca saṅghā atītā ca ye ca saṅghā anāgatā

paccuppannā ca ye saṅghā ahaṃ vandāmi sabbadā.

natthi me saraṇaṃ aññaṃ saṅgho me saraṇaṃ varaṃ

etena sacca-vajjena hotu me jaya-maṅgalaṃ.

saṅghaṃ jīvita-pariyantaṃ saraṇaṃ gacchāmi. 〈僧伽への礼拝文 saṅgha-vandanā〉

過去の諸僧伽、未来の諸僧伽、そして現在の諸僧伽、[そのすべての僧伽に] 私は常に礼拝する。

私には他の拠り所はなく、僧伽[こそ]が最も優れた帰依所である。

この真実の言葉によって、私に勝利の祝福がありますように。

私は命ある限り、僧伽に帰依する。

6

vaṇṇa-gandha-guṇopetaṃ etaṃ kusuma-santatiṃ

pūjayāmi munindassa sirīpāda-saroruhe.

pūjemi buddhaṃ kusumena ’nena

puññaṃ me tena ca hotu mokkhaṃ.

pupphaṃ milāyati yathā idaṃ me

kāyo tathā yāti vināsa-bhāvaṃ. 〈献花文 puppha-pūjā〉

色と香りの徳を備えた、この花々の連なりを、私は諸聖者の王（ブッダ）の吉祥なる蓮華のような足もとに[捧げて]供養する。私はこの花を用いて仏を供養する。その功德によって、また私に解脱がありますように。この花が萎れていくように、私の身体もまた、滅亡の状態へと向かうのである。

7

bhavatu sabba-maṅgalaṃ rakkhantu sabba-devatā,

sabba-buddhānubhāvena sadā sotthī bhavantu te.

bhavatu sabba-maṅgalaṃ rakkhantu sabba-devatā,

sabba-dhammānubhāvena sadā sotthī bhavantu te.

bhavatu sabba-maṅgalaṃ rakkhantu sabba-devatā,

sabba-saṅghānubhāvena sadā sotthī bhavantu te. 〈祈願文 patthanā〉

〔あなたのために〕すべての吉祥がありますように。すべての神々が〔あなたを〕護りますように。あらゆる諸仏の威力によって、常にあなたに安穩がありますように。

〔あなたのために〕すべての吉祥がありますように。すべての神々が〔あなたを〕護りますように。あらゆる諸法の威力によって、常にあなたに安穩がありますように。

〔あなたのために〕すべての吉祥がありますように。すべての神々が〔あなたを〕護りますように。あらゆる諸僧伽の威力によって、常にあなたに安穩がありますように。

8

kāyena vācā cittena pamādena mayā kataṃ
accayaṃ khama me bhante bhūripaṇṇa tathāgata.

kāyena vācā cittena pamādena mayā kataṃ
accayaṃ khama me dhamma sandiṭṭhika akālika.

kāyena vācā cittena pamādena mayā kataṃ
accayaṃ khama me saṅgha puñṇakkhetta anuttara. 〈伝統的な懺悔文 khamā-yācanā〉

身体・言葉・心〔の三業〕によって、不注意による私によってなされた過ちを、尊者よ、多くの智慧をもつ如来よ、どうかお許してください。

身体・言葉・心〔の三業〕によって、不注意による私によってなされた過ちを、法よ、現に見られるものであり、時を要しないものよ、どうかお許してください。

身体・言葉・心〔の三業〕によって、不注意による私によってなされた過ちを、僧伽よ、無上の福田よ、どうかお許してください。

第 16 課 p.149–150

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- dvāraṃ saṃvaritvā nikkhamati. (Nd.476)

彼は扉を閉めてから出て行く。

- so ce taṃ yānaṃ alabhissā agacchissā. (Kv.424)

もし彼がその乗り物を得ていたなら、行ったであろう。

- sā tattha kampitvā kampitvā tiṭṭhati. (J.VI.501)

彼女はそこで、震えながら立つ。

- dhammaṃ sutvāna munino pabbajim anagāriyaṃ. (ThīA.56.verse 2)

聖者（仏陀）の教えを聞いて、私は家なき状態へと出家した。

- tato dīpaṃ gahetvāna vihāraṃ pāvisim ahaṃ. (Thī.135.verse 115)

それから、燈明を取って、私は精舎に入った。

- so pubbe ācariyena saddhim rathaṃ āruhitvā sārathi hutvā agamāsi. (DNA.I.277)

かつて彼は、師とともに馬車に乗り、御者となって、行った。

- bodhisatto maggā okkamma rukkhamaññe nisīditvā Suriyakumārāṃ āmantesi. (J.I.128)
菩薩は道から外れて、木の根元に座り、スリヤクマーラに呼びかけた。
- atha kho brāhmaṇo aññatarāṃ nīcaṃ āsanaṃ gahetvā ekamantaṃ nisīdi. (DN.I.109)
そしてバラモンは、別の低い座を取って、一方に座った。
- āyasmā Ānando pattaṇṇa pāṇīyaṃ ādāya yena bhagavā ten' upasaṅkami. (DN.II.129)
尊者アーナンダは鉢で水を取って、世尊のいるところへ近づいた。
- atha kho so bhikkhu taṃ piṇḍapātaṃ ekaṃ desaṃ bhuñjitvā ekaṃ desaṃ tassā makkaṭṭiyā adāsi.
(VP.III.22)
そして、その比丘はその托鉢の施食を、一部を食べて、一部をその雌猿に与えた。
- sacāhaṃ mahāsamudde viriyaṃ nākarissaṃ, na imaṃ sampattiṃ alabhissaṃ. (J.VI.43.CS)
もし私が大海において精進しなかったなら、この富を得なかったであろう。
- aññataro bhikkhu piṇḍapātaṃ ādāya yena so gilāno bhikkhu ten' upasaṅkami. (VP.IV.77)
ある比丘が托鉢の施食をもらって、その病気の比丘のところへ近づいた。
- etaṃ saraṃ gantvā nahātvā ca pivātvā ca paduminiyā paṇṇehi amhākaṃ pi pāṇīyaṃ ānehi. (J.I.128)
この池に行き、[そこで] 沐浴し、また [水を] 飲んでから、蓮の葉で私たちのためにも水を持って来なさい。
- Puṇṇā eka-divasaṃ tattha aññatarāṃ paccekabuddhaṃ disvā mālāya taṃ pūjetvā añjaliṃ paggayha atṭhāsi. (ThīA.9)
ブンナーはある日、そこで、一人の独覚を見て、花輪で彼を供養し、合掌して立った。
- Sakko devānaṃ indo āyasmantaṃ Mahākassapaṃ disvāna, gharā nikkhamitvā, paccuggantvā,
Mahākassapassa hatthato pattaṃ gahetvā, gharaṃ pavasitvā, ghaṭṭiyā odanaṃ uddharitvā, pattaṃ
pūretvā, āyasmato Mahākassapassa adāsi. (Ud.29)
神々の王サッカ（帝釈天）は、尊者マハーカッサパを見て、家から出て、迎えに行き、マ
ハーカッサパの手から鉢を受け取り、家に入って、壺からご飯を取り出し、鉢を満たして、
尊者マハーカッサパに与えた。
- atha kho so, bhikkhave, Mahā-brahmā ekaṃsaṃ uttarāsaṅgaṃ karitvā dakkhiṇaṃ jānu-maṇḍalaṃ
pathaviyaṃ nihantvā, yena Vipassī bhagavā arahāṃ sammā-sambuddho ten' añjaliṃ paṇāmetvā
Vipassī bhagavantaṃ arahantaṃ sammā-sambuddhaṃ etad avoca. (DN.II.37)
そして、比丘たちよ、その大梵天は、片方の肩に上衣を掛け、右の膝を地面につけて、阿羅
漢であり正等覚者であるヴィパッシー世尊のいるところへ [向かって] 合掌して、阿羅漢で
あり正等覚者であるヴィパッシー世尊に次のように言った。

第 17 課 p.156

A) () 内の動詞の不定体を書き、文章を日本語に訳しましょう。

- so aparabhāge bodhisattassa hatthim (√mara māretum) ārabhi. (J.II.197) 〈√mara 殺す〉
彼はその後、菩薩の象を殺そうと取りかかった。
- na kho te ahaṃ, rājakumāra, sakkomi dhammaṃ (√disa desetum) . (MN.III.128) 〈√disa 説く〉
実に、王子よ、私はあなたに法を説くことはできない。
- so visārado hutvā (√katha kathetum) na sakkoti. (DNA.II.539)
彼は賢くなって（自信を持って）語ることができない。
- evarūpaṃ āhāraṃ (√labha labhitum) na sakkoma. (DhpA.II.245)
私たちは、このような食物を得ることができない。
- so Udeno upāsako bhikkhūnaṃ santike dūtaṃ pāhesi: “āgacchantu bhante, icchāmi dānaṃ ca (√dā dātum) , dhammaṃ ca (√su sotum) , bhikkhū ca (√disa passitum) ” ti. (VP.I.139) 〈√disa 見る〉
そのウデーナという男性在家信者は比丘たちのもとへ使者を送って、[次のように伝えた]。
「尊者方よ、来てください。私は布施を与えること、また法を聞くこと、また比丘たちにお目にかかることを望む。」と。

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- te manussā samaṇaṃ khalu, bho, Gotamaṃ pañhaṃ pucchitum āgacchanti. (DN.I.116)
実に、友よ、それらの人々は、沙門ゴータマに質問をするためにやって来る。
- bhinnaṃ raṭṭhaṃ sandhāretum pāletum samattho ti Raṭṭhapālo. (MNA.III.288)
破れた国を保持し、守ることができる者、それがラッタパーラである。
- tato therō tassa dhammaṃ desetum imā gāthāyo avoca. (VvA.264)
それから長老は彼に法を説くために、これらの偈を説いた。
- tam buddhaṃ ahaṃ cakkhunā viya manasā passāmi. (SnA.II.605-606)
その仏を、私は目で見えるかのように、心で見る。
- yattha pātuṃ vā nahāyitum vā udakaṃ n’ atthi, taṃ nirudakakantāraṃ. (SNA.II.103)
飲むためにも、浴びるためにも水がないところ、それが「無水の荒野（砂漠）」である。
- pāpaṃ na kayirā vacasā manasā kāyena vā kiñcana sabbaloke. (SN.I.12)
全世界において、言葉によっても、心によっても、あるいは身体によっても、いかなる悪も行ってはならない。
- atha kho so aggiko jaṭilo taṃ dāraṇaṃ etad avoca: “icchāmi ahaṃ, tāta, janapadaṃ gantun” ti. (DN.II.340)
その時、その火を祀る結髪 of 行者はその少年に次のように言った。「愛しい子よ、私は国へ行くことを望む（人々が住んでいるところへ行きたい）」と。
- rājā paṇ’ assa kathaṃ sutvā maraṇassa bhayena kiñci vattum na sakkoti. (J.VI.440.CS)

王もまた彼の言葉を聞いて、死の恐れゆえに何も言うことができない。

- acelo Pāṭika-putto “āyāmi āvuso, āyāmi āvuso” ti vatvā tatth’ eva saṁsappati, na sakkoti āsanā pi vuṭṭhātuṁ. (DN.III.21)
裸行者であるパーティカの子は「行く、友よ、行く、友よ」と言いながら、まさにその場で這い回り、座からさえ立ち上がることができない。
- bhagavā ca, Sāriputta, Vipassī bhagavā ca Sikhī bhagavā ca Vessabhū kilāsuno ahesuṁ sāvakānaṁ vitthārena dhammaṁ desetuṁ. (VP.III.8)
サーリブッタよ、世尊ヴィパッシーも、世尊シキーも、また世尊ヴェッサブーも、弟子たちに詳しく法を説くことをあまり行わなかった。
- gāvī mātā vacchakaṁ puttakaṁ disvā, “mayhaṁ puttako attano mātu khīraṁ pātum pi na labhatī” ti sokena na tiṇāni khādituṁ, na pāṇīyaṁ pātuṁ sakkoti. (ANA.V.91)
母牛は子牛である〔自分の〕息子を見て、「我が子は自分の母の乳を飲むことさえ得ることができない」と悲しみによって、草を食べることも、水を飲むこともできない。

第 18 課 p.162

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- tiṇasanthārako upacikāhi khajjati. (VP.I.286)
草の敷物は白蟻たちによって食べられる。
- buddhena bhagavatā dhammo desīyate. (Pm.1)
仏である世尊によって法が説かれる。
- kan nu uddissa muṇḍā ’si, samaṇī viya dissasi. (SN.I.133)
いったい誰のためにあなたは頭を剃ったのか？あなたは女性沙門のように見えるが。
- bahuṁ hi pāpakammaṁ katvā ciraṁ niraye paccanti. (DhpA.III.477)
実に、彼らは多くの悪業を行って、長い間地獄で煮られる（苦しむ）。
- daharāpi hi mīyanti (miyyanti) , narā ca atha nāriyo. (J.VI.26)
実に、若い者たちも死に、男たちも、そして女たちも〔死ぬ〕。
- ayaṁ vuccati, Kassapa, bhikkhu samaṇo iti pi brāhmaṇo iti pi. (DN.I.167)
カッサパよ、この比丘は沙門とも、バラモンとも言われるのである。
- ayaṁ nāgo bhojaputtehi nīyati bhojanatthaṁ. (J.V.166)
この竜は狩人たちによって食事のために連れて行かれる。
- “khaṇe khaṇe tvaṁ, bhikkhu, jāyasi ca jīyasi (jiyyasi) ca miyyasi ca cavasi ca upapajjasi cā” ti. (ThA.II.23)
「比丘よ、あなたは刹那ごとに、生まれ、老い、死に、〔別の存在で〕また死に、そして再び生まれる」と。
- atha kho itthāgāraṁ Serim rājaṁ upasaṅkamitvā etad avoca: “devass’ eva kho dānaṁ dīyati; amhākaṁ

dānaṃ na dīyati. sādhu mayam pi dānāni dadeyyāma puññāni kareyyāmā” ti. (SN.I.58)

「その時、女官たちはセーリ王のもとへ近づいて、次のように言った。「まさに王の布施だけが与えられる。私たちの布施は与えられない。どうか私たちもまた諸々の布施を与え、諸々の功德をなすことができますように。」と。

- manussā nāma mahāpuññā, tīracchānagatānaṃ tathārūpaṃ puññaṃ n’ atthi, tasmā mānusakā bhogā tīracchānagatena pakkhinā na bhuñjīyanti ti. (J.II.364)

人間というのは大きな功德をもつ者であり、畜生たちにはそのような功德はない。ゆえに、人間の諸々の富は畜生である鳥によっては享受されない、と。

第 19 課 p.169

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- rājā taṃ pāpakāriṃ purisaṃ katipayāni divasāni āhāre adatvā chāta-sunakhehi khādāpeti.

(MnA.II.424)

王はその悪行をなした男を、数日間食事を与えず、飢えた犬たちに食べさせる（食い殺させる）。

- “sace tāni dārūni rājā dāpeti harāpetha, bhante” ti. (VP.III.43)

「尊者よ、もし王がそれらの木材を与えるよう命じるなら、[それらを] 持って行ってください」と。

- taṃ potthakaṃ gahetvā Sakko devarājā vāceti. (DNA.II.650)

その書物を取って、神々の王である帝釈天は唱える（読み上げる）。

- rājāpi dhītaraṃ aññattha sayitum na deti, attano santike cullasayane sayāpeti. (J.II.325)

王もまた、娘が他のところで寝ることを許さず、自分のそばで小さな寝台に寝かせる。

- atha so attano puttaṃ sattakkhattuṃ ghātāpetuṃ upakkami. (MA.II.390)

そこで、彼は自分の息子を七回にわたって殺害するために取りかかった（殺害しようとした）。

- “ito sattame divase āgantvā rukkhaṃ chindissāma, rājā chedāpeti, imassa rukkhassa devatā aññattha gacchantu, amhākaṃ doso n’ atthi” ti. (J.IV.154)

「これより七日目に来て、我々は、[この] 樹を伐採するであろう。王は切らせる（王の命令によって切る）。この樹の神々（この樹に宿る神々）は他のところへ行ってください。私たちには過失はない」と。

- Kusarājā dārūni phāleti, bhājanāni dhovati, kācena udakaṃ āharati, pāto vuṭṭhāya yāguādīni pacati harati bhojeti, evaṃ ati-dukkhaṃ anubhoti. (J.V.297)

クサ王は木を割り、容器を洗い、担ぎ棒で水を運び、朝早く起きて粥などを作り、持って行き、食べさせ、このように非常な苦しみを経験する。

- Maddarājāpi taṃ saddaṃ sutvā “atīviya madhuraṃ vādeti, sve etaṃ pakkosāpetvā mama gandhabbaṃ

kāressāmī” ti cintesi. (J.V.290)

マッダ王もまた、その音を聞いて、「極めて美しく演奏している。明日、彼を呼び寄せ、私の乾達婆（音楽神）にしよう」と考えた。

- atha kho Suppavāsā Koliyadhītā sattāhaṃ buddha-pamukhaṃ bhikkhusaṅghaṃ paṇītena bhojaniyena santappesi sampavāresi, taṇ ca dāraṃ bhagavantaṃ vandāpesi sabbaṃ ca bhikkhusaṅghaṃ. (Ud.17)

そして、コーリヤ族の娘スッパヴァーサーは、七日間、仏を上首とする比丘僧伽を上等の食事で満足させ、もてなし、またその少年〔の息子〕に世尊およびすべての比丘僧伽に礼拝させた。

- paṇḍito hi gopālako evarūpe usabhe pūjeti: paṇītaṃ gobhattaṃ deti, mālaṃ pilandheti, siṅgesu suvaṇṇassa ca rajatassa ca kosake ṭhapeti, rattiṃ paḍīpaṃ jāletvā sayāpeti. (MNA.II.261)
- 実に、賢い牛飼いは、このように雄牛たちを供養する—上等の牛の食を与え、花輪を飾らせ、角には金や銀の覆い〔の飾り〕を付け、夜には灯明をともして寝かせる。

第20課 p.176–177

A) () 内の動詞の現在能動分詞を書き、文章を日本語に訳しましょう。

- bhikkhuniyo (√gamu **gacchamānā**) āhaṃsu. (DNA.III.994)
比丘尼たちは行きながら言った。
- tato kumāro tiṇasanthāraḥ (√si **sayamāno**) rodati. (SnA.I.97)
それから、少年は草の敷物に寝ながら泣く。
- eko sunakho taṃ itthiṃ gehe sabbakiccāni (√kara **kurumānaṃ**) olokento ’va nisīdati. (DhpA.III.41)
一匹の犬は、その女性が家であらゆる家事をしているのをじっと見つめながら座る。
- sā devatā buddhaṃ ca dhammaṃ ca (√namasa **namassamānā**) imā gāthā abhāsi. (SN.I.63)
その女神は、仏と法を礼拝しながら、これらの偈を唱えた。
- ekaṃ samayaṃ bhagavā Aṅgesu cārikaṃ (√cara **caramāno**) mahatā bhikkhu-saṅghena saddhiṃ pañca-mattehi bhikkhu-satehi yena Campā tad avasari. (DN.I.111)
ある時、世尊はアング国において遊行しながら、五百人ほどの比丘から成る大比丘僧団とともに、チャンパーに到着した。

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- idh’ ekacco vaṭṭaṃ patthento sampattiṃ icchamāno dānaṃ deti. (MNA.I.89)
ここにある人は、輪廻を求めながら、繁栄を望みながら布施を行う。
- tiṭṭhanto vā caraṃ vā nisīdanto vā sayāno vā upāsako etaṃ satīṃ adhiṭṭheyya. (Sn.26.verse 151)
立っていても、歩いていても、座っていても、あるいは横になっても、男性の在家信者はこの念（正念）を確立すべきである。

- atha kho bhagavā anupubbena cārikañ caramāno yena Vesālī tad avasari. (VP.III.11)
その時世尊は、次第に遊行しながら、ヴェーサーリーに到着した。
- no ca kho so bhavaṃ Gotamo ettako vaṇṇo. aparimāṇo vaṇṇo hi so bhavaṃ Gotamo. (DN.I.117)
実に、その尊師ゴータマはこの程度の称赞にとどまる者ではない。実に、その尊師ゴータマは無量の称赞を有する者である。
- atha kho āyasmā Ānando vihāraṃ pavisitvā kapisīsaṃ ālambitvā rodamāno aṭṭhāsi. (DN.II.143)
その時、尊者アーナンダは精舎に入り、戸の上の横木に寄りかかって、泣きながら立った。
- rājā, bho Gotama, Māgadho Ajātasattu Vedehiputto bho Gotamassa pāde sirasā vandati. (DN.II.73)
尊師ゴータマよ、ヴェーデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、尊師ゴータマの御足に頭をもって礼拝する。
- Bhūjati ca nāma Vessavaṇassa mahārājassa paricārikā bhagavantarṃ namassamānā tiṭṭhati. (DN.II.270)
また、ブージュァティという名のヴェッサヴァナ大王の侍女が、世尊に礼拝しながら立つ。
- evaṃ vutte Doṇo brāhmaṇo te saṅghe gaṇe etad avoca: “suṇantu bhonto mama ekavācaṃ”. (DN.II.166)
このように言われると、ドーナバラモンはそれらの集団・群衆に次のように言った。「尊者たちよ、私の言葉を一つお聞きください。」
- so sabbe vandamāno vicaritvā ekam pi attānaṃ vandantaṃ adisvā “kiṃ nu kho maṃ vandantā n’ atthī” ti pucchi. (DhpA.I.347)
彼は皆を礼拝しながら歩き回ったが、自分を礼拝している者を一人も見ず、「いったいどうして私を礼拝している者はいないのか」と尋ねた。
- tasmīṃ samaye Kisāgotamī nāma khattiyā kaṇṇā uparipāsāde nagaraṃ padakkhiṇaṃ kurumānassa bodhisattassa rūpasirīṃ disvā imaṃ udānaṃ udānesi. (ApA.65)
その時、キサーゴタミーという名のクシャトリヤの娘が宮殿の上階にいて、街を右回りに巡っている菩薩の美しい姿を見て、この（次の）感興の言葉を発した。
- atīte kira bodhisatto daharakāle mahāvīthiyaṃ kīlamāno vīthiyaṃ piṇḍāya caramānaṃ paccekabuddhaṃ disvā “ayaṃ muṇḍako samaṇako kuhiṃ gacchatī” ti cintesi. (ApA.122)
伝え言う。昔、菩薩がまだ幼かった頃、大きな通りで遊んでいたとき、通りで托鉢して歩いている独覺を見て、「この剃髪した沙門はどこへ行くのか」と考えたという。

第 21 課 p.185

A) () 内の動詞の適切な過去受動分詞を書き、文章を日本語に訳しましょう。

- ekamantaṃ (√thā **thito**) kho acelo Kassapo bhagavantaṃ etad avoca. (DN.I.161)
一方に立った裸形者のカッサパは、世尊に次のように言った。
- evam me (√su **sutaṃ**) . ekaṃ samayaṃ bhagavā Sāvattiyaṃ viharati. (DN.I.178)

私はこのように聞いた。ある時、世尊はサーヴァッティーに滞在しておられた。

- parājītā ca, bhikkhave, devā (√bhī bhītā) devapurāṇaṃ yeva pavisiṃsu. (AN.IV.432)
比丘たちよ、敗れた神々は恐れて、まさに神々の都に入った（逃げ込んだ）。
- ambho vaḍḍhakī, devatā tumhākaṃ (√kudha kuddhā) . (J.IV.161)
おい、大工たちよ、神々はあなたたちに怒っている。
- ekamantaṃ (ni √sada nisinnā) kho Pāṭaligāmiyā upāsakā bhagavantaṃ etad avocum. (DN.II.84)
実に、一方に座ったパータリ村の男性在家信者たちは、世尊に次のように言った。

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- laddhaṃ amhehi cīvaraṃ. (VP.III.213)
私たちによって法衣は得られた。（私たちは法衣を得た。）
- niddhūmake pacitaṃ sādhu pakkaṃ. (J.V.488)
煙のないところで調理されたものは、よく煮えたものである。
- iminā mayaṃ bhotā brahmunā nimmitā. (DN.I.18)
私たちはこの尊い梵天によって創られたものである。
- tathā ’haṃ bhagavatā dhammaṃ desitaṃ ājānāmi. (MN.I.130)
私はそのように、世尊によって説かれた法を理解する。
- sabbe sattā marissanti, maraṇantaṃ hi jīvitaṃ. (SN.I.97)
すべての生き物は死ぬであろう。確かに、生命は死をもって終わる。
- te araṇṇaṃ pavasiṭvā rukkhe chindanti, chinnaṃ chinnaṃ rukkhāṃ hatthī kaḍḍhitvā pathe ṭhapesi.
(DNA.III.713)
彼らは森に入って樹々を切り、切られた樹を象が引いて道に置いた。
- na kho me, bhante, rājā Māgadho Seniyo Bimbisāro kupito. (MN.II.101)
尊者よ、大軍を有するマガダ国の王ビンビサーラは私に対して怒ってはいない。
- ekamantaṃ nisinna kho rājā Māgadho Ajātasattu Vedehiputto bhagavantaṃ etad avoca. (DN.I.51)
一方に座ったヴェデーヒー夫人の息子であるマガダ国の王アジャータサットゥは、世尊に次のように言った。
- bhavaṃ hi Soṇadaṇḍo jiṇṇo vuddho mahallako addhagato vayo anuppatto, samaṇo Gotamo taruṇo c’ eva taruṇa-paribbājako ca. (DN.I.114)
実に、尊者ソーナダランダは老い、年を取り、高齢者であり、晩年の者であり、年齢を重ねた者である。[一方、] 沙門ゴータマは若く、しかも若い遍歴行者である。
- atha kho so dāraḥ pituno bhikkhaṃ dinnāṃ disvā etad avoca: “mayham pi, tāta, dehi; mayham pi, tāta, dehi” ti. (VP.I.78)
その時、その少年は、父に施食が与えられたのを見て、次のように言った。「お父さん、私にもください。お父さん、私にもください。」と。
- bahū kho, bhikkhu, mayā dhammā desitā—suttaṃ, geyyaṃ, veyyākaraṇaṃ, gāthā, udānaṃ, itivuttakaṃ, jātakāṃ, abbhutadhammaṃ, vedallaṃ. (AN.II.178)

比丘よ、実に私によって多くの法が説かれた（私は多くの教えを説いた）—— [それらは] 經（スッタ）、応頌（ゲーッヤ）、授記（ヴェッヤーカラナ）、偈（ガーター）、自説（ウダーナ）、如是語經（イティヴッタカ）、本生物語（ジャータカ）、未曾有法（アッブータダンマ）、重層の教理問答（ヴェダッラ）である。

第 22 課 p.191-192

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- bhagavā cintesi: “so brāhmaṇo na me ovādaṃ sotabbaṃ maññissati.” (SnA.II.511)
世尊は考えた。「そのバラモンは私の教えを聞くべきものとは思わないだろう。」
- na ca, bhikkhave, appaṭivekkhitvā āsane nisīditabbaṃ; yo nisīdeyya, āpatti dukkaṭassa. (VP.III.79)
また、比丘たちよ、觀察せずに座に座るべきではない。もし座るならば、悪作の罪となる。
- na naggena naggassa kiñcanaṃ dātabbaṃ. (VP.II.121)
裸の者は [別の] 裸の者に何も与えるべきではない。
- sace antevāsikassa cīvaratthāya rajanaṃ pacitabbaṃ hoti, ācariyena ācikkhitabbaṃ. (VP.II.231)
もし弟子の法衣のために染料を煮る必要があるならば、阿闍梨（師）が教えるべきである。
- na, bhikkhave, pārivāsikena bhikkhunā pakatattassa bhikkhuno purato gantabbaṃ, na purato nisīditabbaṃ. (VP.II.32)
比丘たちよ、別住の比丘（謹慎期間中の比丘）は、正規の比丘（通常の比丘）の前に歩いてはならない。[またその] 前に座ってはならない。
- tattha hoti annam pi pānam pi khajjam pi bhojjam pi peyyam pi naccam pi gītam pi vāditam pi. (AN.V.216)
そこには、炊いた米も、飲料も、硬い食も、軟食も、飲むべき物も、舞踊も、歌も、音楽もある。
- ekamantaṃ nisinnaṃ kho āyasmantaṃ Ānandaṃ bhagavā etad avoca: “ramaṇīyā, Ānanda, Vesālī, ramaṇīyaṃ Udenaṃ cetiyaṃ” ti. (DN.II.102)
一方に座っていた尊者アーナンダに、世尊は次のように言った。「アーナンダよ、ヴェーサーリー [の街] は美しい。ウデーナ塔廟 [もまた] 美しい。」と。
- na upajjhāyaṃ anāpucchā ekaccassa patto dātabbo, na ekaccassa patto paṭiggahetabbo, na ekaccassa cīvaraṃ dātabbaṃ, na ekaccassa cīvaraṃ paṭiggahetabbaṃ. (VP.I.50)
和尚に許可を得ることなく、ある者に鉢を与えてはならない。[また] ある者の鉢を受け取ってもならない。ある者に法衣を与えてはならない。[また] ある者の法衣を受け取ってもならない。
- mahantaṃ ce cetiyaṃ tikkhattum padakkhiṇaṃ katvā catūsu thānesu vanditabbaṃ. khuddakaṇ ce tath’ eva padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhasu thānesu vanditabbaṃ. (MNA.I.255)
もし大きな塔廟であれば、三度右繞して四か所で礼拝すべきである。もし小さな [塔廟] で

あれば、同様に右繞して八か所で礼拝すべきである。

- sabrahmacārī bhikkhavo tam pabbajitaṃ ovaḍanti anusāsanti: “idaṃ te khāditabbam, idaṃ te na khāditabbam; idaṃ te bhuñjitabbam, idaṃ te na bhuñjitabbam; idaṃ te sāyitabbam, idaṃ te na sāyitabbam; idaṃ te pātabbam, idaṃ te na pātabban” ti. (MN.I.460)
同修行者の比丘たちはその出家者を[次のように]教誡し、教訓する。「これはあなたが囓んで食べるべきものであり、これはあなたが囓んで食べてはならない。これはあなたが食すべきものであり、これはあなたが食してはならない。これはあなたが味わうべきものであり、これはあなたが味わってはならない。これはあなたが飲むべきものであり、これはあなたが飲んでではない。」と。
- nisajja kho bhagavā āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi: “iṅha me tvaṃ, Ānanda, pāṇīyaṃ āhara, pipāsito ’smi, Ānanda, pivissāmī” ti. āyasmā Ānando pattaṇa pāṇīyaṃ ādāya yena bhagavā ten’ upasaṅkami, upasaṅkamitvā bhagavantaṃ etad avoca: “pivatu bhagavā pāṇīyaṃ, pivatu sugato pāṇīyaṃ” ti. atha kho bhagavā pāṇīyaṃ apāyi. (DN.II.129)
さて、世尊は座って、尊者アーナンダに[次のように]呼びかけた。「さあ、アーナンダよ、あなたは私のために水を持ってきてくれ。アーナンダよ、私は喉が渴いて、[水を]飲みたい。」と。尊者アーナンダは鉢で水を取って、世尊のもとへ近づき、近づいてから世尊に次のように言った。「世尊よ、どうぞ水をお飲みください。善逝よ、どうぞ水をお飲みください。」と。そして、世尊は水を飲んだ。

第 23 課 p.209–210

B) 以下の文章を日本語に訳しましょう。

- kiṃ esa vātena āhataṃ tālapaṇṇaṃ viya taṭataṭāyati. (DhpA.III.328)
なぜ、この者は風に打たれた多羅（ターラ）の葉のように、バタバタと音を立てているのか。
- nandati puttahi puttimā. (Sn.6.verse 33)
子供を持つ者は、子供たちによって喜ぶ。
- mahārāja, manussattaṃ nāma dullabham eva. (DhpA.III.235)
大王よ、人間として生まれることは実に得難いことである。
- ath’ assa puttā gehaṃ gantvā “pitā no cirāyati, kiṃ karissāmā” ti vadanti. (DhpA.III.26)
そして、彼の息子たちは家に行って、「我々の父が遅れている（父の帰りが遅い）、私たちはどうしようか」と言う。
- samaṇo Gotamo sabba-rattim caṅkamitvā, gandha-kuṭim pavisitvā, niddāyati. (SNA.I.174)
沙門ゴータマは、一晩中経行したあと、香室（仏の居室）に入って、眠る。
- imaṃ udakaṃ aggimhi tappamānaṃ ciccitāyati ciccitāyati saddāyati bahuvidhaṃ. (Mp.258)
この水は火に熱せられるとき、チリチリと、ジュージューと、さまざまな音を立てる。

- sabbe pāṇe attano orasaputte viya mettāyati. (ThA.II.94)
彼は、すべての生きものを自分の実の子のように慈しむ。
- atha kho so guḷo udake pakkhitto ciccīṭāyati ciṭṭīṭāyati sampadhūpāyati. (VP.I.225)
そして、水に投げ入れられたその黒砂糖は、チリチリと音を立て、ジュージューと音を立て、大いに煙を立てる。
- dhammacārī sukhaṃ seti asmiṃ loke paramhi ca. (Dhp.48.verse 168)
法に従って生きる者は、この世においても来世においても、安らかに眠る。
- puttīyati sissaṃ garu. (Bv.45.Gtl.)
師は弟子を息子のように扱う。
- pabbatāyati yogī. (Bv.45.Gtl.)
ヨーガを行ずる者は山のように行動をする。(山のように断固として行動をする)
- ayaṃ vammiko rattiṃ dhūpāyati, divā pajjalati. (ANT.I.167.CS)
この蟻塚は夜には煙を出し、昼には燃え上がる。
- ayaṃ kuddho jhāyamānaṃ veḷuvanaṃ viya kodhena paṭapaṭāyati. (MNA.II.23.CS)
この人は怒って、燃えている竹林のように、怒りによってパチパチと音を立てる。
- bhūtapubbaṃ, bhikkhave, rājā Daḷhanemi nāma ahosi cakkavatti dhammiko. (DN.III.59)
比丘たちよ、かつてダルハネーミという名の王がいた。彼は、法に従った転輪聖王であった。
- so sāyaṃ dhenuṃ āgacchantaṃ disvā tam pi māretvā maṃsaṃ khādītvā rukkhassa mūle nipajjitvā ghurughurāyanto niddaṃ okkami. (J.III.538)
彼は夕方、牝牛が来ているのを見て、それも殺して肉を食べ、木の根元に横になって、グルグルと音を立てながら（いびきをかきながら）眠りに入った。

第 24 課 p.217–218

以下の文中にある合成語を下線で示し、それを合成語の規則に基づき解釈し、文章を日本語に訳しましょう。

- addasa nigrodhaṃ ramaṇīyaṃ pādapaṃ chāyāsampannaṃ. (Pv.79.verse 665)
彼は、美しく、日陰に満ちた一本のニグローダ樹を見た。
- itthidhutto surādhutto akkhadhutto ca yo naro, laddhaṃ laddhaṃ vināseti. (Sn.19.verse 106)
女に溺れた者、酒に溺れた者、賭博に溺れた者は、得ても得ても [すべてを] 浪費してしまう。
- idaṃ hi me hadayaṃ sallavidhho yathā vaṇo tath' eva kampati c' eva rujati ca. (J.VI.561)
実にこの私の心は、矢に射られた傷のように、まさにそのように震え、そして痛むのである。
- sakunto jālamutto va appo saggāya gacchati. (Dhp.49.verse 174)

網から解放された鳥のように、天界へと赴く者は少ない。

- ath' eko vanamakkato sītena pīliyamāno tassa paṇṇasālāya taṃ aggiṃ disvā tattha āgato hoti. (J.II.68)
その時、一匹の森の猿が寒さに苦しめられながら（苦しみながら）、彼の葉で葺いた小屋にあるその火を見て、そこへやって来た。
- iti imasmim kāye vividhā ābādhā uppajjanti, seyyathīdaṃ — cakkhurogo sotarogo ghānarogo jivhārogo kāyarogo sīsarogo kaṇṇarogo mukharogo dantarogo oṭṭharogo kucchirogo ti. (AN.V.110)
このように、この身体にはさまざまな病気が起きる。すなわち、眼の病気、耳の病気、鼻の病気、舌の病気、身体の病気、頭の病気、外耳の病気、口の病気、歯の病気、唇の病気、腹の病気である。
- haṃsehi ākāse daṇḍena nīyamānaṃ kacchapam gāmadārakā disvā “dve haṃsā kacchapam daṇḍena harantī” ti āhaṃsu. (DhpA.IV.92)
二羽の白鳥に空で棒によって運ばれている亀を、村の子どもたちは見て、「二羽の白鳥が亀を棒で運んでいるぞ」と言った。
- yadā bhagavā parinibbāyi tadā raññā Ajātasattunā bhagavato sarīradhātuyo gahetvā Rājagahe thūpo kato. tadā Rājagahavāsīnī ekā mālākārādhītā Sunandā nāma upāsikā ariyasāvikā cetiye pūjaṃ kāresi. (VvA.170)
世尊が般涅槃に入られたとき、その時王アジャータサットゥ（阿闍世王）は世尊の諸々の遺骨を取ってラージャガハ（王舎城）に塔を建立した。その時、ラージャガハに住む一人の花輪師の娘で、スナンダーという名の在家女性信者であり聖なる女性弟子が、[その] 塔廟に供養を行った。
- yathā nu kho imāni, bhante, anekāni sippāyatanāni, seyyathīdaṃ — hatthārohā assārohā dhanuggahā camma-yodhino mālākārā pesakārā naḷakārā kumbhakārā. (DN.I.51)
尊者よ、まさにこのように様々な技能の分野がある——すなわち、象使いたち、馬使いたち、弓術師たち、盾を用いる戦士たち、花輪師たち、織物師たち、葦細工師たち、陶芸師たちである。
- jaccandho puriso na passeyya kaṇhāni sukkāni rūpāni, na passeyya samaṃ visamaṃ, na passeyya tārakāni rūpāni, na passeyya candimaṃ suriyaṃ. (DN.II.328)
生まれつきの盲目の人は、黒や白の姿（黒いものや白いもの）を見ることができないであろう。彼は平らなものやでこぼこしたものを見ることができないであろう。彼は星々の姿を見ることができないであろう。彼は月や太陽を見ることができないであろう。
- tena kho pana samayena rājā Māgadho Seniyo Bimbisāro saṅghassa atthāya sudhāmatikālepanaṃ pāsādaṃ kāretukāmo hoti. (VP.II.154)
その時、大軍を有するマガダ国の王ビンビサーラは、僧伽のために石灰と粘土塗りの殿堂を建てたいと思っていた。
- atha kho Lohiccassa brāhmaṇassa sambahulā antevāsikā kaṭṭhahārakā māṇavakā yen' āyasmato Mahākaccānassa araṇṇakuṭikā ten' upasaṅkamimsu. (SN.IV.117)
その時、ローヒッチャバラモンの薪採り若者である多くの弟子たちは、尊者マハーカッチャ

ーナの森の小屋へと近づいて行った。

- Visākhā upāsikā bhagavantam varam yāci. “icchām’ aham, bhante, saṅghassa yāvajīvam āgantukabhattam dātum, gamikabhattam dātum, gilānabhattam dātum, gilānupaṭṭhākabhattam dātum, gilānabhesajjam dātum, bhikkhunisaṅghassa udakasāṭikam dātum” ti. (VP.I.292)
在家女性信者であるヴィサーカー [夫人] は世尊に [次のような] 願いを求めた。「尊者よ、私は生涯にわたって僧伽に対して、来訪の僧に食事を与えること、出発する僧に食事を与えること、病人に食事を与えること、病人を看護する者に食事を与えること、病人に薬を与えること、比丘尼僧伽に入浴用の衣を与えることを願う。(私は.....をしたい。)

第 25 課

以下の文中にある合成語を下線で示し、それを合成語の規則に基づいて解釈し、文章を日本語に訳しましょう。

- tam visālabodhipādapaṇam namāmi sabbadā.
私はその広大な菩提樹を常に礼拝する。
- suttapariyosāne saḥassabhikkhū arahattam pattā. (MNA.V.103)
經 (説法) の終わりに、千人の比丘たちが阿羅漢果を得た。
- kesā dīghā na dhāretabbā, yo dhāreyya ’ssa dukkaṭam; dvaṅgulaṃ vā dumāsam vā, tato uddham na vaṭṭati. (VPT.237. verse 2799)
髪は長く保ってはならない。もし誰かが保つならば、彼には悪作 [の罪] がある。二指の長さ、あるいは二か月 [まではよいが]、それを超えることは許されない。
- bhagavato kira piṇḍāya pavisitukāmassa indanīlamanīvaṇṇam selamayaṃ pattam hatthadvayamajjham āgacchati. (SnA. I.138)
世尊が托鉢に出かけようとしたとき、サファイア宝石のような色をした石製の鉢が、両手の間に現れたと伝えられている。
- ath’ ekadivasaṃ pupphāni gahetvā caranto bhagavantam caramānam disvā so thero rattuppalakalāpena pūjesi. (ApA.413)
そしてある日、その長老は諸々の花を持って歩いている時に、遊行している世尊を見て、赤い睡蓮の束で供養した。
- sace so mahāpuriso agāram ajjhāvasati, rājā hoti cakkavatti dhammiko dhammarājā sattaratanasamannāgato. tass’ imāni satta ratanāni bhavanti. seyyathīdam—cakkaratanaṃ, hatthiratanam, assaratanam, maṇiratanam, itthiratanam, gahapatiratanam, pariṇāyakaratanam eva sattamam. (DN.I.88-89)
もしその偉人が在家生活に住するならば、法に従った法王である轉輪聖王となり、七つの宝を具えた者となる。彼にはこれらの七つの宝がある。すなわち、輪宝、象宝、馬宝、宝石宝 (摩尼宝)、女宝、居士宝、第七に將軍宝である。
- bhagavā aparimitakappakotiyo dibbagandhagandhitam nānāgandhapūritam ratanakaraṇḍakam vivaranto

viya mukhapadumaṃ vivarivā madhurassaraṃ nicchārento “saccaṃ kira tumhe upāsakā tīṇi saraṇāni bhinditvā aññatitthiyasaraṇaṃ gatā” ti pucchi. (J.I.96)

世尊は、計り知れないほど多くの劫にわたって、天の香りで満たされ、様々な芳香で満ちた宝の箱を開いているかのように、その蓮華のような顔を現し、甘美な声を発しながら「男性在家信者たちよ、あなたたちは三帰依を破って（捨てて）、外道 [の教え] に帰依したのは本当か」と尋ねた。

- brāhmaṇā, bhante, evaṃ āhaṃsu: “brāhmaṇo va seṭṭho vaṇṇo, hīnā aññe vaṇṇā. brāhmaṇo va sukko vaṇṇo, kaṇhā aññe vaṇṇā. brāhmaṇā va sujjhanti, no abrahmaṇā”. (DN.III.81)
尊者よ、バラモンたちは次のように言った。「バラモンこそが最上の階級であり、他は劣った階級である。バラモンこそが白い階級であり、他は黒い階級である。バラモンたちのみが清浄になるのであって、バラモンでない者は [清浄に] なれない。」
- te bilato nikkhamitvā gacchantarāṃ kaṇhasappaṃ yatthi poṭhenti. (UdA.110)
彼らは穴から出て行く黒蛇を棒で打つ。
- ekasatarājadhānīsu khattiyakumārā ca brāhmaṇakumārā ca Bārāṇasīyaṃ disāpāmoḍhassa ācariyassa santike sipparāṃ uggaṇhanti. (J.I.463.CS)
百の王都におけるクシャトリヤの王子たちとバラモンの若者たちが、バーラーナシーで世界的に有名な師のもとで [諸々の] 学問を学ぶ。
- Mahākālanāgarājā atirekapadasatena mahāsattassa vaṇṇaṃ vadanto atthāsi, Mahābrahmā setacchattaṃ dhārayamāno atthāsi. yadā mārabalaṃ bodhimaṇḍaṃ upasaṅkami tadā tesaṃ eko ’pi thātuṃ nāsakkhi. (J.I.72)
龍王マハーカーラは百を超える偈頌をもって摩訶薩の徳を唱えながら立っていた。大梵天は白傘を掲げながら立っていた。魔王（マーラ）の軍隊が菩提道場に近づいた時、その時彼のうち誰一人として [その場に] 留まることができなかった。
- bhikkhū Visākhāya gāyanaṃ sutvā satthu ārocayimāsu: “bhante, amhehi ettake addhāne Visākhāya gāyanaṃ nāma na diṭṭhapubbaṃ, sā ajja putta-natta-panatta-parivutā gāyamānā pāsādaṃ anupariyāti”. (DhpA.I.417)
比丘たちはヴィサーカー [夫人] の歌声を聞いて、師（世尊）に [次のように] 告げた。
「尊者よ、私たちはこれほど長い間、ヴィサーカーの歌というものを（ヴィサーカーが歌うのを）かつて見たことがない。 [しかし] 彼女は今日、息子や孫や曾孫に囲まれて歌いながら、殿堂を歩き回っている。」

第 26 課 p.223–224

以下の文中の合成語を下線で示し、それを合成語の規則に基づき解釈し、文章を日本語に訳しましょう。

- te ubho pi ahinakuḷā niccakālaṃ kalahaṃ karonti. (J.II.53)

その両者の蛇とマンガースは、常に争う。

- idaṃ satthā Jetavane viharanto kākolūkakalaham ārabba kathesi. (J.II.351)
これを、師（仏陀）は祇園精舎に滞在していた時に、カラスとフクロウの争いに関して語った。
- idha, bhante, ekacco pāṇātipātī hoti luddo lohitapāṇī. (MN.III.46)
尊者よ、ここに、ある者は、生き物を殺す者であり、残酷な者であり、血に染まった手を持つ者である。
- ubho saddhā vadaññū ca saññatā dhammajīvino, te honti jānipatayo aññamaññaṃ piyaṃvadā.
(AN.II.59)
[夫婦が] 両者とも、信心をもつ者であり、親切な者であり、自制された者であり、法に従って生活をしている者であり、その夫婦は、互いに愛情の言葉を語る者である。
- te dhuttā satthu antogāmaṃ pavisanavelāya saparivāraṃ satthāraṃ nānāvidhehi akkosehi akkosimsu.
(ANA.I.438)
それらの悪人たちは、師（ブッダ）が村の中に入る時、師を従者たちとともに様々な悪罵で罵った。
- tatth' addasaṃ mahantaṃ janapadaṃ bahujanaṃ ākiṇṇamanussaṃ. (MN.II.71)
そこで私は、人口の多い、人々が満ちた、大きな国土を見た。
- Ānanda, tvaṃ tīṇi vaḍḍhakisaṭṭhāni ādāya uddhamgaṅgaṃ gantvā sārādārūni gāhāpetvā khippaṃ āgaccha.
(J.VI.427)
アーナンダよ、あなたは三百人の大工たちを連れて、ガンジス河の上流へ行き、良質の木材を手に入れさせて、すぐに戻って来なさい。
- bhagavā te bhikkhū disvā etad avoca: “na, bhikkhave, antovassaṃ cārikā caritabbā” ti. (SnA. I.193.CS)
世尊はそれらの比丘たちを見てこのように言った。「比丘たちよ、雨安居の間は遊行をしてはならない。」と。
- ayaṃ kho rukkho sampannaphalo ca upapannaphalo ca, natthi ca kānici phalāni bhūmiyaṃ patitāni.
(MN.I. 366)
確かに、この木は実りが豊かで、実がよくなっているが、地面に落ちている果実は一つもない。
- atīte Bārāṇasiyaṃ aññatarassa gahapatikassa pitā kalam akāsi. so pitu maraṇena sokaparidevasamāpanno assumukho rattakkho kandanto citakaṃ padakkhiṇaṃ karoti. (PvA.39)
昔、バーラーナシーで、ある居士の父が亡くなった。彼は、父の死によって悲嘆に暮れ、涙顔になり、赤くなった目で泣きながら、火葬の積み薪の周りを右回りに巡った。
- icchāṃ' ahaṃ, brāhmaṇa, mahāyaññaṃ yajitum. anusāsatu maṃ bhavaṃ yaṃ mama assa dīgharattaṃ hitāya sukhāya. (DN.I.135)
バラモンよ、私は大いなる祭祀を行いたい。長い間私の利益と幸福になるように、どうか、尊者は、私を教え導いてください。

- hatthī gavāssā maṇikuṇḍalā ca iddhesu kulesu jātā nāriyo ca iddhassa purisassa upabhogā bhavanti.
(J.VI.361)
象、牛、馬、宝石の耳飾り、そして繁栄した家に生まれた女性たちは、裕福な男性の享受物となる。
- tena ca samayena Vesāliyaṃ ussavo ahosi. tattha tattha naccagītavāditaṃ pavattati, mahājano haṭṭhatuṭṭho ussavasampattiṃ paccaṇubhavati. (ThA.I.151)
その時、ヴェーサーリーでは祭りが行われていた。あちこちで舞踊・歌・音楽が催され、多くの人々は喜び満足し、祭りの賑わいを味わっていた。
- idh' ekacco yodhājīvo asicammaṃ gahetvā dhanukalāpaṃ sannayhitvā saṅgāmaṃ otarati. so taṃ saṅgāmaṃ abhivijjintvā vijitasāṅgāmo hoti. (AN.III.94-95)
ここに、ある戦士は、剣と盾を取り、弓と矢筒を身につけて戦いに赴く。彼はその戦いに勝利して、戦いに勝った者（征服者）となる。
- attano kulaṃ punenti sodhenti, mātāpitūnaṃ vā hadayaṃ pūrentīti puttā, attajādayo. (DNT.I.18.CS)
自らの家系を清め、浄化し、または父母の心を満たす者たちは、息子、実子などと呼ばれる。
- bhagavā mahāpaṇṇo puthupaṇṇo javanapaṇṇo tikkhapaṇṇo paṇṇāppabhedakusalo pabhinnaṇṇo dasabaladhārī purisāsabho purisasīho purisanāgo purisadhorayho anantaṇṇo anantatejo anantayaso aḍḍho mahaddhano dhanavā netā vinetā anunetā saṇṇāpetā pekkhetā pasādetā. (Mn.II.356)
世尊は、偉大なる智慧を有する方（大慧者）であり、多くの智慧を有する方（広慧者）であり、迅速理解の智慧を有する方（速慧者）であり、鋭い智慧を有する方（鋭智者）であり、智慧の分析に巧みな方であり、展開された智慧を有する方である、十力を持っている方であり、人中の牡牛（人牡牛）たる方であり、人中の獅子（人獅子）たる方であり、人中の象たる方であり、人中の忍耐強い牛たる方であり、無限の知を有する方であり、無限の威光を有する方であり、無限の名誉を有する方であり、富める方であり、大富を有する方であり、財を有する方であり、指導者であり、教え導く方であり、調和させる方であり、教える方であり、観察する方であり、[浄心を起こし] 喜ばせる方である。

第 27 課 p.242–243

以下の文章を日本語に訳しましょう。

- kāṇaṃ passatu nettena. (Kv.293)
彼は、盲目の人を [自分の] 目で見ますように。
- na no samaṃ atthi tathāgatena. (Khp.4)
如来と等しいものは、決して存在しない。
- ahaṃ vinā maṃsena bhattaṃ na bhuñjāmi. (DhpA.III.333)
私は肉なしでは食事を食べない。

- evarī vutte āyasmā Ānando bhagavantam etad avoca. (DN.I.46)
このように言われたとき、尊者アーナンダは世尊に次のように言った。
- tayā vinā ahaṃ tāta jīvitum hi na ussahe. (J.V.259)
お父さん、実に、私はあなたなしでは生きることができない。
- āvuso Sāriputta, mayam pi taṃ ekaṃ pañhaṃ pucchāma. (J.II.9)
友サーリプッタよ、私たちもあなたに一つの質問を尋ねる。
- yo na hanti na ghātetī tam ahaṃ brūmi brāhmaṇaṃ. (Dhp.113.verse 405)
[自ら] 殺さず、[他者にも] 殺させない者、その人を私はバラモンと呼ぶ。
- namo tassa bhagavato arahato sammāsambuddhassa.
かの世尊・阿羅漢・正等覺者に礼拝する。
- evarūpena pāpakārinā saddhiṃ na gamissāmi. (J.VI.183)
このような悪人とともに私は行かないであろう。
- aparā piṇḍāya caramānassa bhikkhuno pūjanatthāya pupphāni adāsi. (J.II.256)
他の女性は、托鉢をしている比丘を供養するために諸々の花を捧げた。
- bahūnaṃ vata atthāya uppajjanti tathāgatā. (Tha.112.verse 1256)
実に、多くの人々の利益のために如来たちは出現する。
- sotthi bhadante hotu rañño, sotthi janapadassa. (DN.I.96)
尊者よ、王に平安がありますように、国土に平安がありますように。
- ahaṃ samaṇaṃ Gotamaṃ ekaṃ pañhaṃ pucchim. (MNA.II.291)
私は沙門ゴータマに一つの問いを尋ねた。
- satthā Rājagahā nikkhamitvā divase divase yojanaṃ yojanaṃ gacchanto dvīhi māsehi Kapilapuraṃ sampāpuṇi. (BdvA.24)
師（ブツダ）はラージャガハ（王舎城）から出て、日ごとに一ヨージュナずつ歩みながら、二か月でカピラプラに到達した。
- atha kho bhagavā pubbaṇhasamayaṃ pattacīvaram ādāya Sāvattim paṇḍitaṃ. (DN.I.178)
その時、世尊は午前中に、鉢と衣を取って、サーヴァッティー（舎衛城）に入った。
- satthā “āma Ānanda, sattāham eva jīvitvā so maccumukhe patissatī” ti vatvā imā gāthā abhāsi. (DhpA.III.430)
師（ブツダ）は「そうだ、アーナンダよ、彼は七日だけ生きて、[その後] 死の口に落ちるであろう」と言って、これらの偈を説いた。
- vikāle na careyya bhikkhu, yuttakāle eva pana gāmaṃ piṇḍāya careyya. (SnA.I.373)
比丘は、[托鉢のために] 非時（不適切な時）に歩き回ってはならず、適切な時にのみ村へ托鉢に行くべきである。
- itthannāmo saṅghaṃ upasampadam yācati. (VP.I.57)
某という名の者が僧団に具足戒を請う。
- atha kho rājā Pasenadi Kosalo vihāraṃ pavisitvā bhagavato pādesu sirasā nipatitvā bhagavato pādāni mukhena ca paricumbati. (MN.II.119-120)

その時、コーサラ国王パセーナディは僧院に入り、世尊の足もとに頭でもって伏して世尊の両足をキスする。

- rañño, Ānanda, Mahāsudassanassa ayaṃ Kusinārā Kusāvati nāma rājadhānī ahoṣi, puratthimena ca pacchimena ca dvādasayojanāni āyāmena, uttarena ca dakkhiṇena ca sattayojanāni vitthārena.
(DN.II.146)
アーナンダよ、[かつて] このクシナーラーは、マハースダッサナ王のクサーヴァティという名の王都であり、東西には十二ヨージュナの広さがあり、北南には七ヨージュナの幅があった。
- Kassapo bhagavā araham sammāsambuddho brāhmaṇo jātiyā ahoṣi. (DN.II.3)
阿羅漢・正等覺者であるカッサパ世尊は、生まれによってバラモンであった（バラモンの階級に生まれた）。
- maraṇaṃ vā tayā saddhiṃ, jīvaṃ vā tayā vinā;
tath' eva maraṇaṃ seyyo yaṃ ce jīve tayā vinā. (J.V.339)
あなたと共に死ぬこと、あるいはあなたなしで生きること [を考えると]、あなたなしで生きることなら、そこにはむしろ死ぬ方がよい。
- atha kho bhagavā dakkhiṇena hatthena Nālāgirissa hatthissa kumbhaṃ parāmasati. (VP.II.195)
そして、世尊は右手でナーラーギリという象の額を撫でる。
- caratha, bhikkhave, cārikaṃ bahujaṇa-hitāya bahujaṇa-sukhāya lokānukampāya atthāya hitāya sukhāya devamanussānaṃ. mā ekena dve agamittha. (DN.II.45)
比丘たちよ、多くの人々の利益のために、多くの人々の幸福のために、世間への慈悲のために、神々と人々の安寧のために、利益のために、幸福のために、遊行をなさい。一つの道を二人で行くな。
- svāgataṃ āyasmato Ānandassa bhagavato upatthākaṃ bhagavato santikāvacarassa. (MN.I.212)
世尊の侍者であり、世尊の側に仕えるアーナンダ尊者よ、ようこそ。
- Koṇḍaññabuddhassa pana Rammavatī nāma nagaraṃ, Sunando nāma khattiyo pitā, Sujātā nāma devī mātā ahoṣi. (APA.33)
コーンダンニャ仏にもまた、ランマヴァティという名の都があり、スナンダという名のクシャトリヤは父であり、スジャーターという名の王妃は母であった。
- kuṭambiko there disvā āsanesu nisīdāpetvā paṇītena āhārena bhojetuṃ ārabhi. (PvA.35)
家主は長老たちを見て、座席に座らせて、美味しい食事でもてなすことを始めた。
- so gacchat' eva puratthimaṃ disaṃ, gacchati dakkhiṇaṃ disaṃ, gacchati pacchimaṃ disaṃ, gacchati uttaraṃ disaṃ, gacchati uddhaṃ disaṃ, gacchati anudisaṃ. (DN.I.222)
彼（鳥）はまさに東の方へ行き、南の方へ行き、西の方へ行き、北の方へ行き、上の方へ行き、四方の中間へ行く。（行く＝飛んでいく）

第 28 課 p.251-252

以下の文章を日本語に訳しましょう。

- ito ekanavutikappe Vipassī bhagavā uppanno. (DNA.II.411)
今から九十一劫前に、ヴィパッシー世尊が出現した。
- na kho tathāgatā hatthesu paṭiggaṇhanti. (VP.I.4)
如来たちは、確かに、手では〔直接〕受け取らない。
- evam etā pañca mahānadiyo Himavantato pabhavanti. (MNA.III.37)
このように、これら五つの大河はヒマラヤ山から流れ出る。
- kalyāṇamittasaṃsaggato sādhuṭaraṇ, pāpamittasaṃsaggato ca pāpataraṇ nāma n' atthi. (J.V.507)
善き友との交わりよりもより善いものはなく、悪しき友との交わりよりもより悪いものはない。
- Vipassissa bhagavato Bandhumā nāma rājā pitā ahoṣi. Bandhumatī nāma devī mātā ahoṣi. (DN.II.6-7)
バンドゥマーという名の王がヴィパッシー世尊の父であり、バンドゥマティーという名の王妃が母であった。
- Udāyitthero satthuno divase divase rājagehato bhattaṃ āharitvā adāsi. (ANA.I.303)
ウダーイ長老は、毎日王宮から食事を持ってきて師に与えた。
- atthi, brāhmaṇa, puratthimesu janapadesu Sāvattthī nāma nagaraṃ. (AN.I.66)
バラモンよ、東方の国々にサーヴァッティー（舍衛城）という都市がある。
- sā peti aparadivase āyasmato Mahāmoggallānattherassa santikaṃ upagantvā vanditvā atṭhāsi. (PvA.81)
その女餓鬼は、翌日、尊者マハーモッガッラーナ長老のもとへ近づき、礼拝して立った。
- idha, bhikkhave, rañño khattiyassa muddhāvasittassa jettḥo putto ubhato sujāto hoti mātito ca pitito ca. (AN.III.152)
ここに、比丘たちよ、灌頂を受けたクシャトリヤ王の長男が、母方からも父方からも、両方において良き生まれの者である。
- atha kho bhagavā acirapakkante Vassakāre brāhmaṇe Magadhamahāmatte āyasmantaṃ Ānandaṃ āmantesi. (DN.II.76)
そして世尊は、マガダ国の大臣であるヴァッサカーラ婆羅門が去って間もなく、尊者アーナンダに呼びかけた。
- yā pana bhikkhunī bhikkhussa bhuñjantassa pāṇīyena vā vidhūpanena vā upatitṭheyya, pācittiyaṃ. (VP.IV.263)
比丘が食事をしている際に、もし比丘尼が飲み物や扇を持って仕えるならば、〔それは〕波逸提となる。
- atīte, bhikkhave, Padumuttaro nāma buddho loke nibbatti. tassa vassasatasahassaṃ āyu ahoṣi. (DhpA.I.417)
昔、比丘たちよ、パドムッタラという名の仏が世に生まれた。彼の寿命は十万年であった。

- tena kho pana samayena abhiññātā abhiññātā Māgadhiḥ kulaputtā bhagavati brahmacariyaṃ caranti.
(VP.I.43)
その時、マガダ国の著名な良家の息子たちが、世尊のもとで梵行を行っていた。
- parinibbute bhagavati saha parinibbānā Sakko devānam indo imaṃ gāthaṃ abhāsi: “aniccā vata saṅkhārā”. (DN.II.157)
世尊が般涅槃に入ったとき、般涅槃と同時に、神々の王であるサッカはこの偈を唱えた。
「ああ、諸行は無常なり」
- anujānāmi, bhikkhave, sāmaṇeraṇaṃ dasa sikkhāpadāni, tesu ca sāmaṇerehi sikkhitum—pāṇātipātā veramaṇī, adinnādānā veramaṇī, abrahmacariyā veramaṇī, musāvādā veramaṇī, vikālabhojanā veramaṇī.... (VP.I.83)
比丘たちよ、私は沙弥たちに十の学処を許可する。また、それらについて沙弥たちは学習すべきである。すなわち、殺生を離れること、与えられていないものを取ることを離れること、梵行を反する行為を離れること、妄語を離れること、非時食を離れること.....。
- pemato jāyatī soko pemato jāyatī bhayaṃ,
pemato vippamuttassa n’atthi soko kuto bhayaṃ. (Dhp.61.verse 213)
愛情から悲しみが生じ、愛情から恐れが生じる。愛情から解放された者には悲しみは存在しない。どこから恐れが [生じるか]。
- koṭisatasahassīyo parivāressanti accharā,
kusalā naccagītassa vāditepi padakkhiṇā. (Ap.I.125.verse15.CS)
踊りや歌に長け、音楽 [の演奏] にも上手である十万コーティ（一兆）もの天女たちが [彼を] 囲むだろう。

第30課 p.263–267

30.1. マハーパジャーパーティ・ゴータミーの出家（散文）

tena samayena Buddho bhagavā Sakkesu viharati Kapilavatthusmiṃ Nigrodhārāme. atha kho Mahāpajāpatī Gotamī yena bhagavā ten’ upasaṅkami, upasaṅkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ aṭṭhāsi, ekamantaṃ ṭhitā kho Mahāpajāpatī Gotamī bhagavantaṃ etad avoca: “sādhu bhante labheyya mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. “alaṃ Gotamī mā te rucci mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjā” ti. dutiyam pi kho Mahāpajāpatī Gotamī bhagavantaṃ etad avoca: “sādhu bhante...pabbajjan” ti. “alaṃ Gotamī mā te...pabbajjā” ti. tatiyam pi kho Mahāpajāpatī “sādhu bhante...pabbajjan” ti. “alaṃ Gotamī mā te...pabbajjā” ti. atha kho Mahāpajāpatī Gotamī na bhagavā anujānāti mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan ti dukkhī dummanā assumukhī rudamānā bhagavantaṃ abhivādetvā padakkhiṇaṃ

katvā pakkāmi. || 1 ||

atha kho bhagavā Kapilavatthusmiṃ yathābhirantaṃ viharitvā yena Vesālī tena cārikaṃ pakkāmi, anupubbena cārikaṃ caramāno yena Vesālī tad avasari. tatra sudarṃ bhagavā Vesāliyaṃ viharati Mahāvane kūṭāgārasālāyaṃ. atha kho Mahāpajāpatiṃ Gotamī kesa chedāpetvā kāsāyāni vatthāni acchādetvā sambahulāhi Sākiyānīhi saddhiṃ yena Vesālī tena pakkāmi, anupubbena yena Vesālī Mahāvanam kūṭāgārasālā ten’ upasaṅkami. Atha kho Mahāpajāpatiṃ Gotamī sūnehi pādehi rajokiṇṇena gattena dukkhī dummanā assumukhī rudamānā bahi dvārakoṭṭhake aṭṭhāsi. addasā kho āyasmā Ānando Mahāpajāpatiṃ Gotamī sūnehi pādehi rajokiṇṇena gattena dukkhiṃ dummanam assumukhiṃ rudamānam bahi dvārakoṭṭhake ṭhitam, disvāna Mahāpajāpatiṃ Gotamī etad avoca: “kissa tvaṃ Gotamī sūnehi pādehi...rudamānā bahi dvārakoṭṭhake ṭhitā” ti. “tathā hi pana bhante Ānanda na bhagavā anujānāti mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. “tena hi Gotamī muhuttaṃ idh’ eva tāva hohi yāvāhaṃ bhagavantaṃ yācāmi mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. || 2 ||

atha kho āyasmā Ānando yena bhagavā ten’ upasaṅkami, upasaṅkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdi. ekamantaṃ nisinnō kho āyasmā Ānando bhagavantaṃ etad avoca: “esā, bhante, Mahāpajāpatiṃ Gotamī sūnehi pādehi rajokiṇṇena gattena dukkhī dummanā assumukhī rudamānā bahi dvārakoṭṭhake ṭhitā - ‘na bhagavā anujānāti mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan’ ti. sādhu, bhante, labheyya mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. “alam, Ānanda, mā te rucci mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjā” ti. dutiyaṃ pi kho...pe... tatiyaṃ pi kho āyasmā Ānando bhagavantaṃ etad avoca: “sādhu, bhante, labheyya mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. “alam, Ānanda, mā te rucci mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjā” ti. atha kho āyasmā Ānando: “na bhagavā anujānāti mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan; yaṃ nūnāhaṃ aññena pi pariyāyena bhagavantaṃ yāceyyaṃ mātugāmassa tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. atha kho āyasmā Ānando bhagavantaṃ etad avoca: “bhabbo nu kho, bhante, mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajitvā sotāpattiphalam vā sakadāgāmiphalam vā anāgāmiphalam vā arahattaphalam vā sacchikātun” ti? “bhabbo, Ānanda, mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajitvā sotāpattiphalam pi sakadāgāmiphalam pi anāgāmiphalam pi arahattaphalam pi sacchikātun” ti. “sace, bhante, bhabbo mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajitvā sotāpattiphalam pi sakadāgāmiphalam pi anāgāmiphalam pi arahattaphalam pi sacchikātun; bahupakārā, bhante, Mahāpajāpatiṃ Gotamī bhagavato mātucchā āpādikā posikā khīrassa dāyikā, bhagavantaṃ janettiyā kālaṅkatāya thaṇṇaṃ pāyesi; sādhu, bhante, labheyya mātugāmo tathāgatappavedite dhammavinaye agārasmā anagāriyaṃ pabbajjan” ti. “sace, Ānanda, Mahāpajāpatiṃ Gotamī aṭṭha garudhamme paṭiggaṇhāti, sā ’v’ assā hotu upasampadā” ti. (VP.II.253-255)

ある時、世尊であるブッダは釈迦族の国のカピラヴァットゥにあるニグローダ園に住していた。その時、マハーパジャーパティー・ゴータミーは世尊のもとへ近づいた。近づいてから、世尊に礼拝して、一方に立った。一方に立ったマハーパジャーパティー・ゴータミーは、世尊に次のように言った。「善きかな、尊師よ、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家〔のお許し〕を得られますように」と。「十分だ、ゴータミーよ。如来によって説かれた法と律において、女性の家から家なき状態へと出家することは、あなたは好んではない。」と。再びもまた、マハーパジャーパティー・ゴータミーは世尊に次のように言った。「善きかな、尊師よ、……出家〔のお許し〕を得られますように」と。「十分だ、ゴータミーよ。……あなたは好んではない。」と。三度もまた、マハーパジャーパティー・ゴータミーは世尊に次のように言った。「善きかな、尊師よ、……出家〔のお許し〕を得られますように」と。「十分だ、ゴータミーよ。……あなたは好んではない。」と。そこで、マハーパジャーパティー・ゴータミーは、「世尊は、女性が、如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家することを許可しない」と、苦しみ、悲しみ、涙に満ちた顔で、泣きながら、世尊に挨拶して、右回り〔の礼〕（右繞）をなして、〔その場を〕立ち去った。

さて、世尊はカピラヴァットゥで好きなだけ滞在した後、ヴェーサーリーのあるところ、そこへ遊行に出発した。順次に遊行をしながら、ヴェーサーリーのあるところ、そこに到達した。そこで、世尊はヴェーサーリーのマハーヴァナ（大林）にあるクーターガーラサーラー（尖った峰の形をした講堂）に住していた。その時、マハーパジャーパティー・ゴータミーは髪を切らせ、袈裟色の衣をまとい、多くの釈迦族の女性たちとともにヴェーサーリーへ向けて出発した。順次、ヴェーサーリーのマハーヴァナにあるクーターガーラサーラーに近づいた。そして、マハーパジャーパティー・ゴータミーは、腫れた足と塵まみれの身体で、苦しみ悲しみ、涙に満ちた顔で泣きながら、門小屋の外に立った。尊者アーナンダは、腫れた足と塵にまみれの身体で、苦しみ悲しみ、涙に満ちた顔で泣きながら、門小屋の外に立っているマハーパジャーパティー・ゴータミーを見た。見た後、〔尊者アーナンダは〕マハーパジャーパティー・ゴータミーに次のように言った。「ゴータミーよ、なぜあなたは、腫れた足と塵まみれの身体で、苦しみ悲しみ、涙に満ちた顔で泣きながら、門小屋の外に立っているのですか。」と。「なぜなら、尊者アーナンダよ、世尊は如来によって説かれた法と律において、女性の家から家なき状態へ出家することを許可しないのである。」と。「そうであるなら、ゴータミーよ、私が世尊に、如来によって説かれた法と律において、女性の家から家なき状態へと出家〔のお許しを〕請うまでは、しばらくの間ここにいてください。」と。

そして、尊者アーナンダは世尊のいたところへ近づいた。近づいた後、世尊に礼拝して、一方に座った。一方に座った尊者アーナンダは、世尊に次のように言った。「尊者よ、このマハーパジャーパティー・ゴータミーは、腫れた足と塵まみれの身体で、苦しみ、悲しみ、涙に満ちた顔で泣きながら、門小屋の外に立って、「世尊は如来によって説かれた法と律において、女性の家から家なき状態へ出家することを許可しないのである。」と言っている。善きかな、尊師よ、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家〔のお許し〕を得られますように」と。「十分だ、アーナンダよ。如来によって説かれた法と律において、女性の家から

家なき状態へと出家することは、あなたは好んではない。」と。実に、二度もまた（省略）三度もまた尊者アーナンダは、世尊に次のように言った。「善きかな、尊師よ、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家〔のお許し〕を得られますように」と。「十分だ、アーナンダよ。如来によって説かれた法と律において、女性の家から家なき状態へと出家することは、あなたは好んではない。」と。そこで、尊者アーナンダは、「世尊は、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家することをお認めにならない。では、私は別の方法によって世尊に、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家することをお認めくださるようお願いしてみよう」と〔考えた〕。そして、尊者アーナンダは世尊に次のように言った。「尊者よ、女性は、如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家して、預流果、あるいは一來果、あるいは不還果、あるいは阿羅漢果を実証することが可能でしょうか。」と。「アーナンダよ、女性は、如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家して、預流果も、一來果も、不還果も、阿羅漢果も実証することが可能である。」と。「尊者よ、もし女性が、如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家して、預流果も、一來果も、不還果も、阿羅漢果も実証することが可能であれば、尊師よ、マハーパジャーパティー・ゴータミーは〔世尊にとって〕多大な恩のある方で、世尊の叔母であり、養育者であり、育ての親であり、乳を与えた者であり、世尊の生母がお亡くなりになったとき、〔世尊に〕乳を飲ませました。善きかな、尊師よ、女性が如来によって説かれた法と律において、家から家なき状態へと出家〔のお許し〕を得られますように」と。〔世尊は言った〕「アーナンダよ、もしマハーパジャーパティー・ゴータミーが八つの重法（garudhamma）を受け入れるならば、それが彼女の具足戒となるがよい。」と。

30.2. マハーパジャーパティ－・ゴータミーの入滅（韻文）

ekadā lokapajjoto Vesāliyaṃ Mahāvane kuṭāgāresu sālāyaṃ vasate naraśārathi.	1
tadā jinaśa mātuccā Mahāgotami bhikkhuni tahiṃ setapure ramme vasi bhikkhunupassaye bhikkhunihi vimuttāhi satehi saha pañcahi.	2
rahogatāya tass’ evaṃ cittass’ āsi vitakkitaṃ: “buddhaśa parinibbānaṃ sāvakaḡayugassa vā Rāhul-Ānanda-Nandānaṃ nāhaṃ sakkomi passituṃ.	3
paṭihacc’ āyusaṅkhāre ossajitvāna nibbutiṃ gaccheyyaṃ lokanāthena anuññātā mahesiṇā.”	4
nibbānaṃ Gotamī yāti satehi saha pañcahi naḡsatehi va saha Gaṅga pañcahi sāgaraṃ.	17
rathiyāya vajantīnaṃ disvā saddhā upāsikā gharā nikkhamma pādesu nipacca idaṃ abravuṃ:	18
“paśīdassu mahābhāḡe anāthāyo vihāya no tayā na yuttaṃ nibbātuṃ” icc aṭṭā vilapiṃsu tā.	19
tāsaṃ sokaḡahānatthaṃ avoca madhuraṃ giraṃ: “ruditeṇa alaṃ puttā hāsaḡālo yaṃ ajja vo.	20
pariññātaṃ mayā dukkhaṃ, dukkhaḡetu vivajjito, nirodho me sacchikato, maggo cāpi subhāvito.	21
sace mayi dayā atthi, yadi c’ atthi kataññutā saddhammaṭṭhitiyā sabbā karoṭha viriyaṃ daḡhaṃ.	28
thīnaṃ adāsi pabbajjaṃ sambuddho yācito mayā tasmā yathā ’haṃ uddissa tathā taṃ anutiṭṭhatha.”	29
tā evaṃ anusāsivā bhikkhunihi purakkhatā	

upecca buddhaṃ vanditvā imaṃ vacanam abravī:	30
“ahaṃ sugata te mātā, tvaṃ ca dhīra pitā mama saddhammasukhaddo nātha, tayā jāt’ amhi Gotama.	31
saṃvaddhito ’yaṃ sugata rūpakāyo mayā tava anindiyo dhammatanu mama saṃvaddhito tayā.	32
muhuttaṃ taṇhāsamanāṃ khīraṃ tvaṃ pāyito mayā tayā ’haṃ santam accantaṃ dhammakhīraṃ hi pāyitā.	33
vaddhanārakkhane mayhaṃ anaṇo tvaṃ mahāmune puttakāmā thiyo tāva labhantaṃ tādisaṃ sutāṃ!	34
Mandhātādi-narindānaṃ yā mātā tā bhavaṇṇave nimuggā ’haṃ tayā putta tāritā bhavasāgarā.	35
rañño-mātā mahesī ti sulabhan nāmaṃ itthinaṃ, buddhamātāti yaṃ nāmaṃ etaṃ paramadullabhaṃ.	36
taṃ ca laddham mayā vīra, paṇidhānam maman tayā aṇukaṃ vā mahantaṃ vā taṃ sabbaṃ pūritam mayā.	37
parinibbātum icchāmi viḥāy’ emaṃ kalebaraṃ anujānāhi me vīra dukkhantakara nāyaka.	38
cakkaṅkusadhajākiṇṇe pāde kamalakomale pasārehi; paṇāman te karissaṃ putta pemaṣā.	39
suvaṇṇarāsisaṅkāsaṃ sarīraṃ kuru pākaṭaṃ; katvā dehaṃ sudiṭṭhaṃ te santiṃ gacchāmi nāyaka”.	40
tato (jhānato) vuṭṭhāya nibbāyi dīpaccīva nirāsaṇā bhūmicālo mahā āsi nabhasā vijjutā pati.	148
buddhassa parinibbānaṃ n’ edisaṃ āsi yādisaṃ Gotamīparinibbānaṃ atīv’ acchariyaṃ ahu.	173

tato Gotamīdhātuni tassā pattaḡatāni so

upanāmesi nāthassa Ānando buddhaḡodito.

178

(Ap.II.529-542)

ある時、世の灯火であり、人々の御者である方（＝世尊）はヴェーサーリーの大林にあるクータ
ーガーラ堂に住していた。 1

その時、勝利者（ブッダ）の叔母であるマハーゴータミー比丘尼（マハーパジャーパティー・ゴ
ータミー尼）は、その白くて美しい都にある比丘尼住処に、五百の解脱した比丘尼たちと共に住
していた。 2

独りで静かにいる彼女の心に、このような思いが生じた。「私は、ブッダの般涅槃、あるいは二
大弟子たちの〔涅槃〕、あるいはラーフラ、アーナンダ、ナンダの（涅槃）を見ることができない。
3

寿命を支える諸行を退け、それを捨て、世の主である大聖者（＝ブッダ）に許されて、私は寂滅
へ赴きたい。」 4

ゴータミーは、五百人の〔比丘尼たち〕と共に涅槃へ赴く。あたかもガンジス河が五百の河川と
共に海へ流れ入るかのよう。 17

通りを歩いていく彼女たちを見て、信仰心ある在家信女たちは家から出てきて、〔マハーパジャ
ーパティーの〕足もとにひれ伏して次のように言った。 18

「高運を有する方よ、どうかお慈悲ください。我々を身寄りのない者として見捨てて、あなたが
涅槃に入るのは相応しくない。」と、彼女たちは苦悩し、嘆き悲しんだ。 19

彼女たちの悲しみを除くために、〔マハーパジャーパティーは〕甘美な言葉を語った。「子らよ、
泣くのはもう十分だ。今日は、あなたたちにとってこの喜ぶべき時なのだ。」 20

私によって苦は完全に知られ、苦の原因は断たれた。

私によって滅は実証され、道もまたよく修習された。 21

もし私に対する慈しみがあつ、また感謝の念があるならば、

正法が存続するために、あなたたちは皆、強く精進しなさい。 28

私の願いによって、正覚者は女性たちに出家をお許しになった。それゆえ、私が〔この出家〕に

対して「実践した」ように、あなたたちもそれを実践しなさい。 29

「マハーパジャーパティー・ゴータミーは」このように女性たちを教誡し、比丘尼達によって付き添われ、仏陀のもとへ近づき、礼拝してこのような言葉を述べた。 30

「善逝よ、私はあなたの母であり、そして賢者よ、あなたは私の父です。守護者よ、あなたは正法の安楽を与える方です。ゴータマよ、私はあなたより生まれたのです。」 31

善逝よ、あなたのこの色身（肉体）は私によって育てられました。〔しかし、〕避難されるところのない私の法身は、あなたによって育てられました。 32

私はあなたに、わずかな間、喉の渇きを癒やす乳を飲ませましたが、あなたは私に永久の静寂なる法の乳を飲ませてくれました。 33

偉大なる聖者よ、〔私はあなたを〕育て守ったことにおいて、あなたは私に負債のない者です（もう何の恩義も負ってはいません）。子を望む女性たちが、あなたのような息子を授かりますように。 34

マンドートゥ王をはじめとする諸王の母であった者、彼女たちでさえ生存の海に沈んでしまいました。〔しかし、〕息子よ、私はあなたによって存在の海から救い出されました。 35

「王の母」や「王妃」とは、女性たちにとって得やすい名称ですが、「仏陀の母」という名称は、それは極めて得難きものです。 36

英雄よ、その願いもまたあなたによって（あなたのおかげで）私は得ました。小さなものであれ、大きなものであれ、そのすべて〔の願い〕が私によって満たされた。 37

この身体を捨てて、私は完全な涅槃に入りたい。英雄よ、苦しみを終わらせる指導者よ、どうか私に許可をお与えください。 38

輪、鉤、旗〔の相〕に満ちた、蓮華のように柔らかなその御足を差し出してください。息子よ、私は愛情をもって、あなたに礼拝をいたします。 39

黄金の集積のような〔輝く〕お身体をどうかお著しくください。あなたの〔その〕お身体をよく拝見してから、指導者よ、私は寂静へと赴きます。 40

そこから（禅定から）立ち上がって、〔マハーパジャーパティー・ゴータミーは〕燃料が尽きた

灯の炎のように滅した（涅槃に入った）。[その時、] 大地震があり、空からは稲妻が落ちた。
148

仏陀の般涅槃はゴータミーの般涅槃ほどのものではなかった。[彼女の方が] 極めて稀有なものであった。 173

その後、アーナンダは仏陀に促されて、彼女の鉢に収めたゴータミーの遺骨を、守護者（仏陀）に手渡した。 178